

島根史学会会報

論説

松江城山の「西南戦争戦死者記念碑」について

猪飼 隆 明

はじめに

竹永三男氏は、松江文化情報誌『古都松江』（vol.20 二〇一〇年九月三〇日 松江開府四〇〇年 ラフカディオ・ハーンⅡ小泉八雲頼松二〇年特集号）に、「籠手田安定と『西南戦争戦死者記念碑』—ラフカディオ・ハーンを雇った島根県知事の一面—」を発表した。氏は、この一文と、知事がこの日の建設を行なったこと等を報じる『山陰新聞』（明治二十一年五月）のコピーなどを筆者に送ってこられて、西南戦争の激戦地からみた知見を述べるよう求められた。求められた知見に十分にお答えできるとは言えないのであるが、いくつかのことを指摘してみたいと思う。

第 52 号 2014. 12. 20

論説	松江城山の「西南戦争戦死者記念碑」について	猪飼 隆明	： 一頁
研究ノート	続・松江藩銀札の貨幣価値	藤澤 秀晴	： 一四頁
特集	追悼・内藤正中先生	森安 章	： 一六頁
	追悼・歴史学者内藤正中先生	竹永 三男	： 一八頁
	内藤正中先生の業績を思う	森安 章	： 二〇頁
	内藤文庫資料目録	森安 章	： 二〇頁

一 西南戦争参戦者について

西南戦争の一方の当事者は、反乱軍、すなわち鹿児島私学校党に結集する鹿児島県土族と、これに呼応して起った周辺諸県の土族たちであり、いま一方の当事者は、官軍と総称される政府軍である。

(イ) 反乱軍について

反乱軍は、私学校党と総称される鹿児島県土族が言うまでもなくその中心であるが、一八七五（明治八）年に鹿児島城旧厩跡に設立された、篠原国幹が監督する銃隊学校、村田新八が監督する砲隊学校の二つの学校を中心に、鹿児島府内の各方限、県内各郷に設けられたその分校の生徒たち一万三〇〇〇人から一万五〇〇〇人におよぶ土族たちである。彼等は「政府二尋問之筋有之」として蜂起したが、多くの反乱土族、とくに分校に結集していた麓武士とよばれる

人たちは、そのほとんどが蜂起の目的を知らされないままであった（拙著『西南戦争―戦争の大義と動員される民衆』吉川弘文館 二〇〇八年）。つまり、半ば強制的に参戦させられたものが多くあったとみてよい。

いっぽう、西郷起つるの報に呼応した熊本・大分・福岡等の士族は、それぞれ党薩隊を組織して、参戦した。かれらはそれまで、あるいは保守派として行動していたり、民権派として活動していたが、それぞれ大いなる議論の末に、反乱に大義を見つけて参戦した。その大義とは、保守派も民権派も同じく、「君側の奸を除く」というにあり、ともに有司専制こそが除かれるべき権力の本体であると認識していた。この点については、全く例外がないと言つてよい。

したがって、全国の士族層には、とくに西南諸藩の士族層は、維新変革を担つたと自負するものも多く、それが大久保利通や岩倉具視などの一部の有司能吏に権力（国家意志の決定権）が集中することに不満をもち批判するものが多くいたと思われる。民権運動、とくに士族の運動が開かれるところには、この反乱に動かされるものもいっても不思議ではないのである。政府が、立志社を中心に、土佐士族の動向に神経をとがらせたのは大いに理由のあることであつた。

さて、このような事情からいつて、島根県士族のなかに動揺が起きることはなかったのか。一八七九（明治一二）年に大阪で開かれた愛国社第二回大会に野口敬典を代表として送つた尚志社の「尚志社趣意書」（板垣退助監修『自由党史』上巻 岩波文庫）は、「吾儕学者の言を聞くに、苟も国民にして専制の政を甘受し、卑屈の風に満足せば、其国決して富強なる能はず、其国決して永遠無事なる能はず、之を人身に譬るに猶ほ虚弱の人の如し」云々といい、いかにも士族民権派の主張をここに見せているが、西南戦争については何の認識も示していない。

しかし、この期の士族の動向については、研究に値する課題である。

（口）官軍について

政府が、征討の詔を發した一八七七年二月九日の時点で、熊本城の熊本鎮台には、鎮台司令長官陸軍少将谷干城、参謀長中佐樺山資紀、同副長少佐児玉源太郎らのもとに、本営一四六名、歩兵第十三連隊一、九〇四名、砲兵第六大隊三三〇名、予備砲兵第三大隊九八名、工兵第六小隊一〇六名、および熊本県令富岡敬明や内務書記官品川弥二郎と其属官二三名、将校の家族一九名を合わせて二、六三二名がいた。このうち兵卒は一、九一九名であつた。この兵卒のうち徴兵がどれだけを占めているのか明らかではないが、松下芳男は、「熊本鎮台の徴兵は明治八年より入営したのであるから、八年兵及び九年兵が入営していたわけであつて、現役三年分を以つて鎮台兵の定員とせば、この時には右の二年分と共に、尚お旧藩兵及び壯兵が、徴兵現役一年分だけの兵員が在営したことになるのである。故に徴兵の数は、在営兵の概算三分の二となり、いかに多く見積もるも、恐らく約二千名中の三分の二、即ち一千三四百名ぐらいなものであつたらう」（松下『明治軍制史論』上巻 有斐閣 一九五六年）という。ここに言う壯兵とは、志願兵のことで、熊本城を顔に煤をぬり、ぼろをまとつて脱出、城北の官軍に連絡、その後田原坂で戦死したことで有名な（尋常小学修身書 卷三）に「ちゆうくんあいこく」として紹介された）谷村計介は、この壯兵の一人である（拙著『熊本明治秘史』熊本日日新聞社 一九九九年）。

なお、この鎮台には、攻城戦が始まる前に、小倉からの歩兵第一四連隊第一大隊の左半大隊三三一一名、警視隊三〇〇〇四〇〇名が加わったが、この第一四連隊の兵卒のうちおよそ三〇〇〇名が徴兵、たうと松下は言う。

官軍は、第一旅団、第二旅団ついで第三旅団を直ちに編成し、そ

表1 西南戦争官軍編制表

	歩 兵			砲 兵	工 兵	合 計
	近 衛	鎮 台	壯 兵			
第一旅団	942	3387	1819	115	139	6384
第二旅団	1543	3428	1176	130	45	6325
第三旅団	550	4075		264	120	5009
第四旅団		554	1612	224	81	2461
別働第一旅団		3762	188	176	115	4241
別働第二旅団		2653	2349	151	91	5244
別働第三旅団			2728	36		2764
別働第四旅団		1024	595	113		1732
新撰旅団			3564	120		3684
熊本鎮台		3788	882	206	99	7975
総 計	3020	22661	17913	1535	690	45819

(注)表中の数字は、執銃戦闘者のみの数であり、下士の給養掛・書翰掛・伝令使、卒の喇叭手などはふくまれない。
 教導団生徒からなる撰抜大隊・狙撃隊・後備軍遊撃隊、屯田兵等は、壮兵に合算している。別働第三・新撰旅団を構成する巡査は壮兵に入れた。
 熊本鎮台の兵数は戦争中、逐次増加しているから、初戦時の数とは異なる。
 松下芳男『明治軍制史論』470頁の表より作成。

の後さらに陸軍少将曾我祐準を第四旅団長に任じ、つぎつぎに新旅団を編成した。その概要を表1に示した。第一旅団は、陸軍少将野津静雄司令長官のもとに東京鎮台歩兵・大阪鎮台歩兵・東京鎮台予備砲兵・東京鎮台予備工兵および騎兵・輜重兵若干によって編成された、第二旅団は、三好重臣陸軍少将を司令長官として、近衛歩兵

第一連隊・東京鎮台予備砲兵・東京鎮台予備工兵、そして騎兵・輜重兵若干によって編成された。また第三旅団は、陸軍少将三浦梧楼司令長官のもとに近衛歩兵の一個大隊、大阪鎮台歩兵の二個大隊および騎兵・輜重兵若干によって編成された。

ところで、この表1は、下士や軍属を含んでいないこと等正確さを欠くが、旅団の編成がめまぐるしく異動して、全体を正確に把握することが難しいのが現状なのである。

例えば二月二十七日に大山巖少将を司令長官として編成された別働第一旅団は、三月一四日に解散したが、四月二二日になると、高島鞆之助少将の別働第二旅団が別働第一旅団として新編成され、それに伴って山田顕義少将の別働第三旅団が別働第二旅団に改称され、川路利良少将の別働第四旅団が、三月二八日に別働第三旅団に改称されたが、七月には解団している。また三月下旬に新編成された別働第三旅団は四月には別働第四旅団と改称されたが、五月には解団され、別働第五旅団は四月一三日に編成されて同月二一日解団している。したがって、陸軍の総兵力は、五万八、五五八名といわれる(軍夫は含まれない。陸上自衛隊北熊本修親会『新編 西南戦史』復刻本 原書房 一九七七年)が、ここに含まれる下士五、八五四名、軍属一、六二一名を除いて得られる五万一、〇八三名は、表の数字よりまだ五、二六四名多いのである。つまり、官軍に編成された兵士の数を特定するのは容易ではないというのが現状なのである。なお、海軍の兵員総数は二、二八〇名である。

さらに、各府県の徴兵が、いかなる兵所種管に配属されたのかについてほとんど明らかではない。後でみるように、島根県の徴兵は、大阪鎮台・広島鎮台・東京鎮台・名古屋鎮台に配属される。そして、「各鎮管内常備熟練兵ノ中、強壯ニシテ行状正シキ者」(一八七五年一月一五日六管鎮台徴員並にその方法の改正に伴う、「近衛兵編成並にその定額」)が選別されて近衛兵に配属される。

制度的には以上であるが、実際どのように配置されたのかについては定かではない。

二 西南戦争での戦死者数

西南戦争における戦死者・戦傷者数も容易に確定しがたい。薩軍（私学校軍）および党薩諸隊の戦死者については、凡そ五、〇〇〇名、戦傷者も概算で一万人程度とされており、もとより明確ではない。一方の官軍については、『西南戦史』は、戦死者四、六五三名、負傷後死亡者二、一九〇名、合わせて六、八四三名（内訳は、陸軍省五、六六二名、海軍省二五名、警視局八三四名、熊本県三二二名である）で、負傷者は九、二五二名とされている。

しかし、より多くの戦死者数をカウントしているのは、靖国神社社務所『靖国神社忠魂史 西南の役』（これは高野和人によって新たに編纂され新潮社により一九九〇年に出版された。以下『忠魂史』と略称する）で、戦死者数は、負傷後の死亡者を含め六、九四八名とされている。

これを府県別にみると、表2のようになる。

表2 西南戦争の府県別戦死者数

開拓使	12	宮城	89
東京府	250	福島	117
京都府	95	茨城	33
大阪府	67	栃木	63
奈良県	185	群馬	83
和歌山県	129	山梨	32
三重県	225	石川	457
滋賀県	199	福井	267
長崎県	135	山梨	209
新潟県	164	山梨	261
群馬県	77	山梨	487
千代田県	162	山梨	327
茨城県	227	山梨	147
栃木県	70	山梨	155
三重県	280	山梨	374
和歌山県	146	山梨	185
奈良県	171	山梨	362
京都府	49	山梨	242
大阪府	158	山梨	40
奈良県	100	山梨	6948
和歌山県	118	山梨	

(注) 靖国神社社務所『靖国忠魂史 西南の役』所収「府県別戦死者数」より作成。なお、のちの奈良県は堺県、福井県・富山県は石川県、鳥取県は島根県、徳島県は高知県、香川県は愛媛県、佐賀県は長崎県、宮崎県は鹿児島県に、それぞれ属していたため表中には表れない。

これをみると、戦死者は全国におよんでいることが分かる。いくつかの特徴をあげれば、東北諸県は比較的戦死者は少ないとみえる。一方、戦場となった九州は、いずれの件も多くの戦死者を出している。しかし、全国を通じて最も多くの戦死者を出したのは山口県であるが、何らか特別の事情があったとは思われない。石川県が山口県につづいて多いのは、石川県が福井県・富山県を含む大県だったからに他ならない。すなわち、官軍の主体が徴兵であることが、戦死者の全国広範囲化を招いたのである。

ところで、熊本県熊本市北区植木町の田原坂公園内には、戦死者の慰霊塔が建てられており、ここには各県ごとの戦死者の名前が刻まれている。（写真参照）ここに、島根県は二六五名と記載され、右隣の鳥取県には、二名とされ、田中辰治・濱田忠茂の名が見える。この二名のうち、濱田は、上記『忠魂史』では「島根県」のなかにその名が見え、田中ひとり鳥取県とされている。ところが、明治一〇年時点では、鳥取県は島根県にすっぽり含まれており、独立した県ではなかったから、その時点での出身県はすべてが島根県とされるべきのだが、『忠魂史』では一人、慰霊塔では二人がなぜか鳥取県を出身県として表記しているのである。しかし、ともあれ、人名からいえば、『忠魂史』に記載された戦死者名は、総てがこの慰霊塔に名が刻まれているのである。したがって、この時点での戦死者は、島根県二六七名ということになる。

この、明らかに戦死者の名前と所属した旅団・部隊名を、『忠魂史』から拾い集めて列挙すると表3となる。

表3 「島根県」出身兵士の西南戦争戦死者名およびその所属部隊死亡日等

氏名	階級	所属	死亡日	死亡した場所	『忠魂史』 中該当頁	島根県 出身者○
安岡正茂	伍長	熊鎮 熊鎮砲 6大1小	2. 22	飽田郡宮内	36	
村津幸次郎	伍長	熊鎮 熊鎮歩 13聯 3大1中	2. 23	熊本鎮台病	35	
佐下谷誠治	伍長	熊鎮 熊鎮歩 14聯 2大附	2. 23	玉名郡木葉村	49	
小高林萬壽	兵卒	熊鎮 熊鎮歩 14聯 1大2中	2. 25	山鹿郡鍋田	53	
中村全節	軍曹	熊鎮 熊鎮歩 14聯 1大1中	2. 26	玉名郡高瀬	52	
安尾信兄	軍曹	熊鎮 熊鎮歩 14聯 3大1中	3. 4	田原坂	61	
大庭元美	伍長	熊鎮 熊鎮歩 13聯 2大4中	3. 10	飽田郡古城	39	
小庭宣之郎	中尉	熊鎮 熊鎮歩 13聯 1大1中	3. 13	飽田郡段山	39	
小林谷柔太郎	曹長	熊鎮 熊鎮幕僚書記	3. 13	飽田郡古城	39	
阪井幸男	軍曹	熊鎮 熊鎮歩 14聯 3大3中	3. 15	玉名郡橋木村	88	
久保田賢一郎	軍曹	熊鎮 熊鎮歩 14聯 3大3中	3. 20	山本郡植木	99	
富山茂三郎	伍長	熊鎮 熊鎮砲 6大1小	4. 4	飽田郡藤崎	44	○
景山茂三郎	中尉	熊鎮 熊鎮砲 6大1小	4. 20	託麻郡砂取村	162	○
今村幾三郎	伍長	熊鎮 熊鎮歩 13聯 1大1中	6. 24	豊後大野郡赤松峠	207	
	少尉補	熊鎮 熊鎮歩 14聯 1大4中	8. 6	日向臼杵郡蛇山	211	
藤井光晴	兵卒	第1旅 近歩 2聯 1大2中	3. 4	田原坂	60	
橋尾秀造	兵卒	第1旅 近歩 2聯 1大2中	3. 4	山本郡船底山	60	
大西虎次郎	兵卒	第1旅 大鎮歩 8聯 2大2中	3. 4	山本郡吉次峠	62	
宮内多三郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 1大2中	3. 7	田原坂	67	○
有藤正路	軍曹	第1旅 大鎮歩 9聯 2大2中	3. 7	田原坂	67	
湯本正晴	兵卒	第1旅 近歩 2聯 1大2中	3. 8	玉名郡木葉陸病	67	
山根久雄	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 14	山本郡木留	79	
木村川豊勝	伍長	第1旅 大鎮歩 9聯 2大4中	3. 15	玉名郡横平山	85	
夏宮永大	伍長	第1旅 東鎮歩 1聯 3大4中	3. 15	玉名郡横平山	84	
宮田信男	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 20	玉名郡二俣	94	
太濱田忠茂	伍長	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 20	山本郡向坂	94	
嶋田猪之吉	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 20	山本郡向坂	94	
茂田清見	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	玉名郡二俣	96	
楯身貫一	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	玉名郡二俣	96	
梅實力藏	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	95	
龜井島藏	伍長	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	95	
坂本勝三郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	95	
山本茂八郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	95	
山中東久五郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	95	
中本平三郎	喇卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	96	
淵田直夫	伍長	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	95	
美間田壽賀造	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 20	山本郡向坂	96	
田淵眞哉	伍長	第1旅 東鎮歩 3聯 3大2中	3. 20	山本郡向坂	97	
金澤幸次郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 21	玉名郡木葉陸病	95	
家藤良藏	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 21	山本郡植木	110	
原田中義秀	軍曹	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 22	玉名郡高瀬陸病	95	
中島房造	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 23	玉名郡高瀬陸病	95	
廣本福太郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大3中	3. 23	山本郡植木	112	○
米本善三郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大3中	3. 23	山本郡植木	112	
石田信次郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大3中	3. 23	山本郡植木	112	
浅田久登	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 24	長崎陸軍病院	96	
宮田元次郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	3. 24	山本郡鐘滴水	115	
牧部宗章	伍長	第1旅 大鎮歩 8聯 2大3中	3. 24	山本郡園?寺山	115	
原柳三郎	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大2中	3. 25	玉名郡高瀬陸病	95	
中村一貫	軍曹	第1旅 東鎮歩 3聯 3大3中	3. 28	山本郡木留村	121	
足立庄松	兵卒	第1旅 大鎮歩 10聯 1大4中	3. 31	益城郡久具村	146	
田中正常	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	4. 2	久留米陸軍病院	96	
山根常藏	兵卒	第1旅 近歩 2聯 2大4中	4. 3	長崎陸病	120	

氏名	階級	所屬	死亡日	死亡した場所	『忠魂史』 中該当頁	島根県 出身者○
岩田富藏	喇卒	第1旅 近歩2聯2大2中	4. 8	山本郡木留	135	
松川鐵之八	伍長	第1旅 近歩2聯2大2中	4. 8	山本郡木留	135	
宇村佐之	兵卒	第1旅 広鎮歩11聯1大4中	4. 8	山本郡平野村	136	○
松久惣太郎	兵卒	第1旅 広鎮歩11聯2大4中	4. 8	山本郡滴水	136	○
足立千之助	兵卒	第1旅 広鎮歩11聯2大4中	4. 8	山本郡平野村	136	○
清水島牧	兵卒	第1旅 大鎮歩10聯3大2中	4. 8	山本郡滴水	136	
木須磨哲一	兵卒	第1旅 近歩2聯2大4中	4. 11	玉名郡高瀬陸病	132	○
朝倉力藏	伍長	第1旅 近歩2聯2大4中	4. 12	長崎陸病へ船送中	132	
田中村盛次	兵卒	第1旅 大鎮歩10聯3大2中	4. 21	長崎陸軍病院	136	
田古瀬彌七郎	軍曹	第1旅 東鎮歩1聯1大4中	4. 21	益城郡川原村	164	
堀越辰五郎	兵卒	第1旅 大鎮歩8聯2大4中	4. 23	長崎陸病	135	
中澤義治	伍長	第1旅 広鎮歩11聯2大3中	4. 27	長崎陸病	136	○
吉村田谷敏重	兵卒	第1旅 広鎮歩11聯2大3中	5. 8	大阪臨陸病	136	○
	軍曹	第1旅 東鎮歩1聯3大3中	7. 4	日向臼杵郡新町	216	
	伍長	第1旅 近歩2聯2大2中	8. 18	日向臼杵郡可愛嶽	250	
	兵卒	第1旅 近歩2聯2大1中	9. 15	大阪臨陸病	245	
下山貞一郎	兵卒	第2旅 近歩1聯1大3中	3. 6	田原坂	65	
佐々木昌武	中隊長・大尉	第2旅 近歩1聯1大4中	3. 6	玉名郡木葉陸病	65	
松本長藏	兵卒	第2旅 近歩1聯1大3中	3. 7	田原坂	69	
桑原善雄	伍長	第2旅 大鎮砲4大	3. 7	田原坂	69	
喜多川政之	少尉補	第2旅 大鎮歩9聯1大3中	3. 7	田原坂	69	○
石渡原啓二	兵卒	第2旅 近歩1聯2大4中	3. 8	玉名郡二俣	70	○
南邊京民	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大3中	3. 8	玉名郡二俣	71	○
森武藏	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大3中	3. 8	玉名郡二俣	71	○
板持武豊	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大3中	3. 8	玉名郡二俣	72	○
石川能藏	軍曹	第2旅 大鎮歩9聯1大3中	3. 8	田原坂	71	
曾爾爾忠	大尉	第2旅 広鎮歩11聯2大	3. 9	田原坂	74	○
大賀新兵衛	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3. 9	田原坂	74	○
肥塚政吉	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3. 11	田原坂	77	○
藤延覺之助	軍曹	第2旅 大鎮砲2大2小	3. 11	田原坂	76	
角田扶斎	兵卒	第2旅 近歩1聯1大1中	3. 12	玉名郡二俣	78	○
加田友重	伍長	第2旅 大鎮歩8聯3大4中	3. 14	玉名郡二俣	80	○
青戸健衛	伍長	第2旅 近歩1聯2大1中	3. 15	玉名郡二俣	73	○
飯田友三	軍曹	第2旅 近歩1聯2大4中	3. 15	玉名郡二俣	85	○
上松本池	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大2中	3. 15	玉名郡横平山	86	
本池繁吉	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大2中	3. 15	玉名郡横平山	86	
湯畑莊松	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大2中	3. 15	玉名郡横平山	86	
吉岡基藏	伍長	第2旅 大鎮歩10聯2大2中	3. 15	玉名郡横平山	86	○
佐々木平四郎	少尉補	第2旅 大鎮歩10聯2大3中	3. 15	玉名郡横平山	87	
小谷義忠	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大4中	3. 15	山本郡半山	87	
小意東熊次郎	中隊長・大尉	第2旅 大鎮歩9聯3大2中	3. 15	山本郡船底山86	86	
大杉庭内末次	伍長	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	3. 17	田原坂	90	○
杉庄常兵	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3. 17	田原坂	90	○
石田庄藏	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3. 17	田原坂	90	○
前川田治平	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3. 18	久留米陸軍病院	77	○
清水田常吉	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	3. 18	田原坂	93	
清山岡儀一	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	3. 18	玉名郡二俣	93	
和岡丈樹	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	3. 18	玉名郡二俣	93	
和岡源次郎	伍長	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	3. 18	玉名郡二俣	93	○
笠本(木)定次郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	3. 18	玉名郡二俣	93	○
前高梨善積	少尉	第2旅 大鎮歩9聯1大1中	3. 18	田原坂	93	
尾崎作次郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	3. 19	玉名郡高瀬陸病	93	
	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大4中	3. 20	田原坂	99	

氏名	階級	所屬	死亡日	死亡した場所	『忠魂史』 中該当頁	島根県 出身者○
村田柳三郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大3中	3.21	玉名郡高瀬陸病	87	
八野嘉四郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大3中	3.21	山本郡植木	111	
西澤藤藏	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大4中	3.22	玉名郡木葉陸病	99	
加藤藤憲	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯3大3中	3.22	玉名郡木葉陸病	111	
木嶋辰藏	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大4中	3.23	山本郡大月原	114	○
河本常次郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	3.23	山本郡滴水	114	○
赤松鉄次	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大3中	3.25	山本郡轟村	119	○
村山刀為	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3.23	山本郡滴水	114	○
澤山清脩	軍曹	第2旅 大鎮歩9聯2大1中	3.23	山本郡吉次越	113	
澤重治	軍曹	第2旅 広鎮歩11聯2大3中	3.25	玉名郡生野村	118	○
寺傳十郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大3中	3.25	山本郡滴水積塚	118	
寺嶋久藏	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大3中	3.25	山本郡滴水積塚	118	
中村龜太郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大4中	3.26	山本郡大月村	121	○
佐々木松太郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大4中	3.26	山本郡大月村	121	○
中村作次郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大4中	3.26	山本郡大月村	121	○
森山川康之丞	軍曹	第2旅 広鎮歩11聯2大4中	3.26	山本郡大月村	120	○
中友善三郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	3.26	山本郡滴水村	121	○
大屋善三郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3.26	玉名郡高瀬陸病	121	○
伊藤八十八	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯3大2中	3.26	玉名郡高瀬陸病	118	
能勢民弥	軍曹	第2旅 大鎮歩9聯1大4中	3.29	福岡陸病	78	
森富次郎	伍長	第2旅 広鎮歩11聯3大3中	3.30	玉名郡高瀬陸病	90	○
松本原啓	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	3.31	玉名郡高瀬陸病	119	○
布(日)野又助	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大3中	4.1	久留米陸軍病院	71	○
足立権六	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大4中	4.1	山本郡古閑村	125	
山尾常吉	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	4.2	山本郡滴水	126	○
山本宗直	伍長	第2旅 東鎮騎1大	4.6	大阪臨陸病	85	
矢飼小寅	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	4.6	玉名郡木葉陸病	133	○
岩本寅次	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	4.6	山本郡荻迫	133	○
田儀豊太郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	4.6	山本郡荻迫	133	○
勝部彌太郎	伍長	第2旅 広鎮歩11聯3大3中	4.6	山本郡滴水	134	○
亀山田作四郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	4.6	山本郡平野村	134	○
井清田吉	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大2中	4.6	山本郡植木	133	
前田佐太郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大4中	4.9	山本郡木留	138	
坂本元明	曹長	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	4.15	長崎陸病	119	○
山名水壽次郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	4.25	玉名郡高瀬陸病	93	
奥山喜代松	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	4.28	大阪臨陸病	134	○
津川柳吉	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大1中	5.10	玉名郡高瀬陸病	86	
中川正次郎	伍長	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	5.12	大阪陸病	119	○
中村徳太郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯3大2中	7.17	日向諸縣郡高原	224	
佐藤一三郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大2中	7.26	大阪臨陸病	87	○
伊吹李三郎	砲少尉	第2旅 大鎮歩9聯1大4中	8.3	大隅桑原郡横川	257	
岡長太郎	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	8.4	臼杵郡三河内村三嶽山	218	○
橘音吉	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大4中	8.17	大分郡鶴崎陸病	210	○
白井民治	生徒	第2旅 教導団歩1大4中	8.18	日向臼杵郡可愛嶽	252	
坂會延太郎	伍長	第2旅 教導団歩1大2中	8.18	日向臼杵郡濱鄉村	252	
山織織太郎	生徒	第2旅 教導団歩1大4中	8.18	日向臼杵郡可愛嶽	252	
山崎金助	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯2大4中	8.18	日向臼杵郡可愛嶽	252	○
斎藤友治	兵卒	第2旅 広鎮歩11聯3大1中	8.21	大分郡鶴崎陸病	218	○
松井仁三郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯3大2中	8.26	日向細島陸病	252	
中山源藏	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯3大2中	8.30	大隅桑原郡山下村	257	
山根平四郎	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯3大2中	8.30	大隅桑原郡山下村	257	
岩本房吉	兵卒	第2旅 大鎮歩10聯2大3中	9.6	大阪臨陸病	87	
福田六太郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯3大3中	11.12.18		272	
政尾竹次郎	兵卒	第3旅 近歩2聯1大1中	3.6	田原坂	66	
松村澤吉	兵卒	第3旅 近歩2聯1大1中	3.6	田原坂	66	
大森龜太郎	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	3.6	玉名郡南関陸病	101	

氏名	階級	所屬	死亡日	死亡した場所	『忠魂史』 中該当頁	島根県 出身者○
梅澤為次郎	兵卒	第3旅 近歩2聯1大1中	3. 7	田原坂	70	
中川豊五郎	曹長	第3旅 広鎮歩2聯3大3中	3. 8	玉名郡二俣	72	○
柴村勝太郎	兵卒	第3旅 近歩2聯1大1中	3. 9	田原坂	74	
松島正春	軍曹	第3旅 近歩2聯1大3中	3. 12	山鹿郡平山	103	
佐貫寅吉	伍長	第3旅 広鎮歩2聯3大2中	3. 12	山鹿郡鍋田	105	○
橘彌太郎	兵卒	第3旅 広鎮歩2聯3大2中	3. 12	山鹿郡鍋田	105	○
常松新太郎	兵卒	第3旅 広鎮歩2聯3大2中	3. 12	山鹿郡鍋田	105	○
大畑喜多次(治)	兵卒	第3旅 広鎮歩2聯3大2中	3. 12	山鹿郡鍋田	105	○
大横田信好	少尉	第3旅 近歩2聯1大3中	3. 15	山鹿郡平山	106	
池本義正	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	3. 15	玉名郡肥猪町陸軍病院	106	
田中本啓次郎	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	3. 15	山鹿郡鍋田永野原	106	
山日野安次郎	軍曹	第3旅 近歩2聯1大4中	3. 15	山鹿郡鍋田永野原	106	
日兼折平太郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯1大3中	3. 15	山鹿郡鍋田	108	○
兼鬼谷啓次郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯3大2中	3. 15	山鹿郡鍋田	108	○
湯浅又次郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯3大2中	3. 15	山鹿郡鍋田	108	○
伊藤伊豊	軍曹	第3旅 大鎮歩10聯3大3中	3. 15	山鹿郡鍋田	107	○
磯岩武久	曹長	第3旅 大鎮歩10聯3大4中	3. 15	山鹿郡鍋田	107	
安田要吉	兵卒	第3旅 近歩2聯1大1中	3. 17	福岡陸病	66	
太田義務	伍長	第3旅 東鎮豫砲1大2小	3. 31	玉名郡岩村	101	
伊藤藤義幸	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	4. 1	山本郡石川村	129	
福新吉次郎	喇兵卒	第3旅 広鎮歩11聯3大3中	4. 5	大阪臨陸病	74	○
岩佐吉次郎	兵卒	第3旅 大鎮歩10聯3大4中	4. 7	合志郡古閑村	130	○
後藤作平	兵卒	第3旅 大鎮歩10聯3大3中	4. 9	久留米陸軍病院	107	
福間準吉	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	4. 11	山鹿郡山鹿陸病	129	○
堀越富五郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大3中	4. 12	合志郡鳥栖	131	○
飯塚常三郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	130	○
岡田三代吉	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	130	○
神田為市	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	130	○
小角橋濟	伍長	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	130	
橋本雅朝	伍長	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	130	○
松本寅(富)吉	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	131	○
森山嘉三郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	131	○
田中友次郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 12	合志郡鳥栖	130	○
西村金平	兵卒	第3旅 大鎮歩10聯3大3中	4. 19	玉名郡高瀬陸病	130	
西木村信之	伍長	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	4. 26	長崎陸病	131	○
角田捨三郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	5. 4	玉名郡高瀬陸病	131	○
猪口高忠	兵卒	第3旅 近歩2聯1大3中	5. 19	葦北郡上木場長左工門	181	
福田中勝	第3旅	第3旅 近歩2聯1大3中	5. 19	葦北郡大関山	181	
太田清孝	軍曹	第3旅 近歩2聯1大3中	5. 19	葦北郡大関山	180	
河津宜精	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	5. 19	葦北郡大関山	181	
太田倉吉	兵卒	第3旅 近歩2聯1大4中	5. 19	葦北郡大関山	181	
西川上實造	伍長	第3旅 広鎮歩11聯3大2中	5. 20	葦北郡木場山	181	○
西村上忠正	軍曹	第3旅 近歩2聯1大3中	5. 24	葦北郡上木場長左工門	182	
藤田藤市	兵卒	第3旅 大鎮歩9聯3大4中	5. 25	葦北郡佐敷陸病	183	
足利源次郎	兵卒	第3旅 近歩2聯1大1中	6. 18	薩摩伊佐郡高熊山	185	
大浦崎梶太郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	7. 1	日向臼杵郡鏡村	217	○
高見半左工門	兵卒	第3旅 大鎮歩10聯3大1中	7. 2	伊佐郡大口陸軍病院	222	
吾郷甚太郎	兵卒	第3旅 大鎮歩10聯3大1中	7. 21	長崎陸病	186	
山内武利	兵卒	第3旅 遊撃歩2大1中	7. 23	大隅曾於郡笠木村	231	
田中辰利	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯2大2中	8. 17	日向臼杵郡可愛嶽	252	○
田中甚四郎	兵卒	第3旅 広鎮歩11聯3大2中	9. 2	入院中	131	○
		第3旅 近歩2聯1大3中	9. 8	鹿児島	267	
		第3旅 近歩2聯1大1中	明11.12.16	飽田郡道古閑村	155	
		第4旅 遊撃歩1大4中	4. 14	飽田郡道古閑村	155	

氏名	階級	所属	死亡日	死亡した場所	『忠魂史』 中該当頁	島根県 出身者○
戸田直也	中尉	第4旅 東鎮歩1大3小	6.15	鹿児島郡多賀山	191	
坂重成	少尉補	第4旅 遊撃歩2大3中	6.23	鹿児島郡鳥越坂	192	
渡邊捨太郎	兵卒	第4旅 広鎮歩11聯1大2中	7.9	鹿児島陸軍病院	196	○
三成庄之助	兵卒	第4旅 広鎮歩11聯2大1中	7.24	大隅曾於郡財部小陣山	231	○
木村十次郎	曹長	第4旅 広鎮歩11聯2大1中	7.24	大隅曾於郡財部小陣山	231	
井口定治	兵卒	第4旅 広鎮歩11聯1大2中	7.28	宮崎郡舟曳村	239	○
岡恒久	少尉補	第4旅 広鎮歩11聯3大1中	8.11	長崎陸病	192	
倉橋愿	士見習	第4旅 東鎮後歩1大1中	9.3	長崎陸病	191	○
諸住吉蔵	兵卒	別1旅 大鎮歩10聯1大3中	3.23	八代郡大野村	142	
塩田廣介	兵卒	別1旅 広鎮歩11聯1大4中	4.7	八代郡宮地村	152	○
田邊秀武	伍長	別1旅 大鎮歩10聯1大4中	4.7	八代郡宮地村	152	○
三宅貞雄	伍長	別1旅 大鎮歩10聯1大4中	4.7	八代郡宮地村	152	○
永田貞仲	大隊長・少佐	別1旅 大鎮歩10聯1大	5.24	鹿児島郡武村	190	
足立勝蔵	兵卒	別1旅 大鎮歩10聯1大3中	6.3	鹿児島陸軍病院	196	
湖山義治	軍曹	別1旅 名鎮歩6聯2大4中	6.24	鹿児島郡深橋	195	
和久利善太郎	兵卒	別1旅 広鎮歩11聯1大1中	6.24	鹿児島郡武大明神岡	196	○
保榮五郎	兵卒	別1旅 大鎮歩10聯1大2中	6.24	鹿児島郡武大明神岡	195	
有澤丹治	兵卒	別1旅 大鎮歩10聯3大2中	6.24	鹿児島郡武大明神岡	195	
廣瀬宣幸	伍長	別1旅 東鎮歩2聯2大1中	6.25	鹿児島陸軍病院	195	
絹谷勘蔵	兵卒	別1旅 近砲1大1小	7.8	大隅肝属郡百引	227	
藤原政次郎	兵卒	別1旅 広鎮歩11聯1大1中	7.11	日向諸縣郡大崎村	229	○
善次郎	兵卒	別1旅 大鎮歩10聯1大3中	8.3	長崎陸病	227	
伊藤祐信	中尉	別2旅 東鎮歩2聯1大4中	5.13	長崎海軍病院	153	
中村寅吉	軍曹	別2旅 東鎮砲1大1中	5.29	球磨郡人吉近傍	175	
竹本直繩	中尉	別2旅 東鎮砲1大1小	5.30	球磨郡人吉近傍	175	
久末牧二郎	兵卒	別2旅 遊撃歩1大4中	6.4	八代郡八代陸病	168	
椿清次郎	伍長	別2旅 教導団選抜大隊1中	6.12	諸縣郡加久藤	177	
廣田市松	兵卒	別2旅 遊撃歩1大4中	7.19	日向諸縣郡山城山	226	
安田光義	兵卒	別2旅 遊撃歩1大4中	9.15	長崎陸病	186	
浅野俊章	軍曹	別2旅 東鎮歩3聯1大4中	9.22	熊本陸病	175	○
西原躰太郎	警部補	別3旅 警視局	2.20	東京自宅	157	
黒沢少作	四巡查	別3旅 警視局	3.12	飽田郡段山	40	○
斎藤光	二巡查	別3旅 警視局	3.18	山本郡七本	93	
玉田幸太郎	三巡查	別3旅 警視局	3.30	益城郡娑婆神越	260	○
岩崎甚蔵	三巡查	別3旅 警視局	5.6	薩摩伊佐郡牛山郷小木	178	
小嶋常一	三巡查	別3旅 警視局	6.1	豊後海部郡臼杵	203	
中山正枝	二巡查	別3旅 警視局	6.25	鹿児島郡上ノ原	198	
	三巡查	別3旅 警視局	7.31	宮崎郡赤江川	239	○
石川亀蔵	兵卒	別4旅 遊撃歩1大4中	4.14	飽田郡道古閑村	155	
溝谷乙吉	兵卒	別4旅 大鎮歩10聯1大1中	5.10	葦北郡屋敷野越	169	○
谷口林蔵	兵卒	別4旅 遊撃歩1大4中	5.12	葦北郡佐敷	169	
角梅太郎	兵卒	別5旅 名鎮歩6聯2大3中	4.20	託麻郡保田窪	161	○
神谷源蔵	四巡查	新撰旅 警視局	9.01	薩摩谿山郡谷山口	261	○
廣江尚造	伍長	新撰旅 教導団歩1大	9.02	鹿児島米倉	263	
小笹啓三郎	四巡查	警視局	3.18	阿蘇郡黒川	46	○

(注)靖国神社社務所『靖国神社忠魂碑 西南の役』(青潮社版 1990年)より作成。どの地でのいかなる戦闘で死亡したのかの概要は本書の該当頁を参照されたい。

表4 「島根県」出身兵士の所属部隊の分布
()内は『記念碑』名簿と合致する兵士数

		聯隊	大隊	中隊	小隊	人数
熊本鎮台	砲兵		6		1	3(2)
	歩兵	13	1	1		2
	歩兵	13	2	4		1
	歩兵	13	3	1		1
	歩兵	14	1	1		1
	歩兵	14	1	2		1
	歩兵	14	1	4		1
	歩兵	14	3	1		1
	歩兵	14	2	附		1
	歩兵	14	3			2
	幕僚書記				3	
計						15(2)
第一旅団	近歩	2	1	2		4(1)
	近歩	2	2	1		1
	近歩	2	2	2		12
	近歩	2	2	3		3(1)
	近歩	2	2	4		17(1)
	大鎮歩	8	2	2		1
	大鎮歩	8	2	3		1
	大鎮歩	8	2	4		1
	大鎮歩	9	2	2		1
	大鎮歩	9	2	4		1
	大鎮歩	10	1	4		1
	大鎮歩	10	3	2		2
	東鎮歩	1	1	4		1
	東鎮歩	1	3	3		1
	東鎮歩	1	3	4		1
	東鎮歩	3	3	2		1
	東鎮歩	3	3	3		1
広鎮歩	11	1	4		1(1)	
広鎮歩	11	2	3		2(2)	
広鎮歩	11	2	4		2(2)	
計						55(8)
第二旅団	近歩	1	1	1		1(1)
	近歩	1	1	3		2
	近歩	1	1	4		1
	近歩	1	2	1		1(1)
	近歩	1	2	4		2(2)
	大鎮歩	3	3	4		1(1)
	大鎮歩	9	1	1		1
	大鎮歩	9	1	3		2(1)
	大鎮歩	9	1	4		2
	大鎮歩	9	2	1		1
	大鎮歩	9	3	2		1
	大鎮歩	10	2	1		8(1)
	大鎮歩	10	2	2		7(2)
	大鎮歩	10	2	3		6
	大鎮歩	10	2	4		5
	大鎮歩	10	3	1		1(1)
	大鎮歩	10	3	2		5
	大鎮歩	10	3	3		1
	大鎮歩	11	2			1
	大鎮砲		4			1
	大鎮砲	2	2			1
	東鎮騎		1			1
	広鎮歩	11	2			1(1)
広鎮歩	11	2	3		4(4)	
広鎮歩	11	2	4		6(6)	
広鎮歩	11	3	1		10(10)	
広鎮歩	11	3	3		5(5)	
広鎮歩	11	3	4		11(11)	
教導団歩	1	2			2	
教導団歩	1	4			1	
計						92(48)
第三旅団	近歩	2	1	1		7
	近歩	2	1	3		7
	近歩	2	1	4		8(1)
	大鎮歩	9	3	4		1
	大鎮歩	10	3	1		1
	大鎮歩	10	3	3		3(1)
	大鎮歩	10	3	4		3(1)
	広鎮歩	2	3	2		4(3)
	広鎮歩	2	3	3		1(1)
	広鎮歩	11	1	3		2(2)
	広鎮歩	11	2	2		13(11)
	広鎮歩	11	2	3		1(1)
	広鎮歩	11	3	2		4(3)
	広鎮歩	11	3	3		2(1)
	東鎮豫砲	1	2			1
遊撃歩	2	1			1	
計						59(25)
第四旅団	東鎮歩	1	3			1
	東鎮後歩	1	1			1(1)
	広鎮歩	11	1	2		2(2)
	広鎮歩	11	2	1		2(1)
	広鎮歩	11	3	1		1
	遊撃歩	1	4			1
遊撃歩	2	3			1	
計						9(4)
別働第一旅団	近砲	1	1			1
	大鎮歩	10	1	2		1
	大鎮歩	10	1	3		3
	大鎮歩	10	1	4		2(2)
	大鎮歩	10	1			1
	大鎮歩	10	3	2		1
	東鎮歩	2	2	1		1
	広鎮歩	11	1	1		2(2)
	広鎮歩	11	1	4		1(1)
	名鎮歩	6	2	4		1(1)
計						14(6)
別働第二旅団	東鎮歩	2	1	4		1
	東鎮歩	3	1	4		1(1)
	東鎮砲		1	1		1
	東鎮砲		1		1	1
	遊撃歩	1	4		1	3
教導団選抜大隊				1	1	
計						8(1)
別働第三旅団	警視局					8(3)
	計					8(3)
別働第四旅団	大鎮歩	10	1	1		1(1)
	遊撃歩		1	4		2
計						3(1)
別働第五旅団	名鎮歩	6	2	3		1(1)
	計					1(1)
新撰旅団	警視局					1(1)
	教導団歩		1			1(1)
計						2
不明	警視局					1(1)
	計					1(1)
総計						267(102)

(注) 出典は表3と同じ。

これをさらに熊本鎮台および各旅団ごとに、またそこに所属する
聯隊・大隊・中隊・小隊それぞれに島根県出身兵士が何名配置され
ているのかについてまとめたのが表4である。

これを見ると、彼らがいかにばらばらに配されているかが分かる。
同一の部隊(中隊)にもっとも多く配されているのは第一旅団に属
する近衛歩兵第二聯隊第二大隊第四中隊で、ここには一七名が配さ

表5 部隊ごとの「島根県」出身、戦死者兵員数

近衛	歩兵	66	67
	砲兵	1	
熊本鎮台	幕僚書記	1	15
	歩兵	14	
東京鎮台	歩兵	10	14
	砲兵	3	
	騎兵	1	
大阪鎮台	歩兵	67	69
	砲兵	2	
広島鎮台	歩兵	77	77
名古屋鎮台	歩兵	2	2
遊撃	歩兵	8	8
教導団	歩兵	6	6
警視局		10	10
計			267

(注) 出典は表3と同じ。

れている。これにつづくのは、第三旅団所属の広島鎮台第一聯隊第二大隊第二中隊で一三名、第二旅団第一聯隊第三大隊の第一中隊と第四中隊でおの一名である。戦死者数からの判断ではあるが、郷土部隊と言えるものは全く存在しないことが分かる。つまり、同じ郷土から徴兵された兵士はばらばらに配されて、したがって上官の命令に素直に従う兵士であることが求められたとみてよいだろう。

ちなみに、雑賀町出身の兵士六名も、富山茂郎は熊本鎮台砲兵第六大隊一中隊、石原之衛は近衛歩兵第一聯隊第二大隊第四中隊、加田扶斎は大阪鎮台歩兵第八聯隊第三大隊第四中隊、森山康之丞は広島鎮台歩兵第一聯隊第二大隊第四中隊、中村豊五郎も広島鎮台ではあるが歩兵第二聯隊第三大隊第三中隊、倉橋愿は東京鎮台後歩兵第一大隊第一中隊と、全くばらばらの部隊に所属し、残り的小笹啓三郎は警視局の巡査である。すなわち、同郷という連帯意識を持つ条件は、軍隊のなかには全く存在していなかったのである。

また、彼らを所属部隊ごとにその数をまとめたものが表5であるが、近衛兵が多いのが特徴だろう。先に触れたように、近衛兵は、

表6 『忠魂史』に記載のない島根県出身兵士

氏名	死亡した場所
村上丈太郎	広島病院にて死
石原徳五郎	長崎軍団病院にて死
細井 勘太	長崎軍団病院にて死
黒田儀之助	大隅国据え吉村で負傷、臨時病院で死
公田 兵市	鳥の巣で死
手銭庄太郎	流行病、臨時病院で死
山根 浅吉	第二旅団大綱帯所で死
兎谷 慶二	鍋田村で死
細野 正音	流行病、大阪病院で死
門脇周次郎	流行病、兵庫病院で死
村上 茂石	流行病、長崎軍団病院で死
斎藤清次郎	

これを見ると、公田兵市と兎谷慶二の二名（前者は鳥の巣で、後者は鍋田の戦場で死亡している）を除いて、戦地で負傷し、のち病院で死亡している。このように、負傷後死亡の戦死者が見落とされがちであったのではないかと推測される。し

ももとは薩長土三藩の藩士を母体につくられたものであるが、徴兵令施行後各鎮台兵のなから選抜され送り込まれた優等兵、いわばエリートなのである。したがって、島根県はこの優等兵を多く生み出したと言えるだろう。

ところで、これまで「島根県」と呼んでいたものは、実はその後の島根県及び鳥取県の二県を合わせたものであった。「西南之役雲石隠戦死者記念碑」は、一四四名の戦死者の霊を祀るものとして、籠手田安定島根県知事によって建設された。この一四四名の名簿は『山陰新聞』第九九一号附録（明治廿一年五月三日付）に掲載されている。この名簿と、『忠魂史』の名簿とを突き合わせて、同一人と確認できるものに、○を付した。その数は、実は一〇二名であつて、したがって、二六七名の「島根県」出身兵士のうち、一六五名は鳥取県出身者であろうと判断できる。

そのように見ると、「記念碑」の一四四名のうち、一二名は『忠魂史』の戦死者名簿から脱落している兵士たちであり、籠手田知事は、「記念碑」建立にあたって、一二名の兵士たちを西南戦争の犠牲者として発掘したことになる。その一二名を示すと表6になる。

かし、疑問は膨らむ。戦死者については、内務省あるいは陸軍省（海軍省）によつて、各府県を通じて、その補償が行なわれているのだから、その記録はあつたはずなのである。島根県の場合、その記録が、「記念碑」建立に際して残つていたのではないかと思われる（現在のことは分からない）。

したがつて、逆に見れば、西南戦争の戦死者数は、島根県一県にして一二名を増加しなければならぬところからして、これを全国的に見れば相当数の増加が見込まれるのである。

おわりに

島根県出身兵士が、西南戦争の如何なる戦闘にいかなる役割を果たした、あるいは果さんとしたのか、その固有の役割を明らかにすることは困難である。というより、そうした地域性にもとづく固有の役割といったものは、開拓使の屯田兵（これはみな志願兵で、熊本県南部の人吉での戦闘から屯田兵の部隊として参戦し、多くの犠牲者を出した―表2の開拓使一二名の死者数は少なすぎる―）を除いては存在しないとみてよいと思う。

こうしたことをも考慮の上で、籠手田知事による「記念碑」建立の意図を考える必要がある。しかし何よりも、大日本帝国憲法頒発・国会開設を間近に控えて、民権運動以来の政治的諸潮流のきしみ合い（どのような姿を島根県において示していたのか明らかにならなければならないが）を、知事がどのように把握していたのか、「記念碑」がその政治的状况にどのような役割を持つと期待されたのか、今後の研究に待ちたい。

続・松江藩銀札の貨幣価値

藤澤秀晴

本会の「会報五十一号」に、「松江藩銀札の貨幣価値」という研究ノートを掲載した。

そこで出した結論は、「銀札一匁は錢三七四文である」というものであった。

しかし、これは高い。何かの間違ひではないか、という疑問が当然出てくると予想される。

この疑問に対して、筆者なりの答えを出しておく。それが再度同じテーマで研究ノートを提出した理由である。

前項の付記で、次のように述べた。

「ここでは、民間人相互の取引で生じた価値を主題にした。藩当局と民間人との取引きでは、また別途の価値が成立するように思われる。」と。

そこで、別の史料に拠って、再び考えてみたい。

嘉永七 寅 八月（安政元 一八五四）

「御山守兵三郎殿断二付、代り被仰付剋、廻勤進物」

という、当時の榑縫郡国富村（出雲市国富町）にある史料である（故森山敏夫氏蔵）。

これは、国富村は藩の御立山（藩有林）があつて、その山番役に任命されたときの文書である。「廻勤進物」というのは、藩の要職に対して、お札に廻つたときの、相手に贈つた進物の記録である。

この国富村の「御立村」は一カ所である。「東西八拾貳間、南北

五拾四間」であつた。四三三八坪の広い山林である。

この山の「山守」に対しては、別に給領が支払われたわけではない。ただ三畝歩の「御役御免屋敷」、つまり免租地が認められていた。以上のデータは、「寛政四子（一七九二）」の「榑縫郡村々萬差出帳」（平田図書館蔵コピー本）によつたものである。

さて、それではどれだけの進物をしたのであろうか。

酒切手 一斤 一四〇文

銀札 一匁 一四五文

藩の要職への進物であるから、これは松江での公定相場とみてよからう。

次に。拙者『出雲木綿の歴史』（報光社、二〇一三刊）に引用した史料をみる。

史料は「木綿恵美須講帳」である。

それに出てくる二例の記述をあげる。

元利弍式拾壹貫弍百三十三文

此処へ札 百四拾六匁二 （一〇二頁下）

一同六拾壹貫三百三拾五文 西尾屋常七

札 四百廿三匁以 （一〇五頁下）

この二例から計算すると、いずれも、一四五文となる。前にあげた「国富村」の例と変わらない。これは平田町の例である。

大体このあたりが、幕末の当地方での銀札相場であらう。

それにしても、何故鷺浦の相場が、あのように銭安、銀札高であったのか。

それは、浦社会特有の経済事情によるのであろう。

つまり、全国から約四〇カ国の北前船が入港する港である。

彼ら他国船の乗組員は、絶対に藩札は使わない。一步出雲国外へ出たら、銀札といえどもただの紙切れである。

したがって、入港中の諸旅費、積荷の購入碑もすべて銭によった。銭に対する需要は多大であった。

このような事情が銭高銀札安の背景であった。

一方、一四五文であった、松江・平田の場合は、どう考えたらよいであろうか。それはこれこそが松江藩領内の出雲国一般社会の相場であったと考えている。こうしてみると、為替レートにも、TP Oがあったように思われる。

特集 追悼・内藤正中先生

追悼・歴史学者内藤正中先生

森 安 章

内藤正中先生が亡くなったのは、昨年末の十二月十六日。もうすぐ一周忌を迎える。

先生は一九五五年、京都大学院修了後、島根大学に職を求め、堀江英一教授はわざわざ松江に向いて後押しし、大学側はそれを受け入れて実現した。以後、先生は時流に流されず、人におもねらず、厳然たる姿勢を持っていた。先生が歴史を見る立ち位置は、先生にとって特別の地である島根であった。研究に没頭、県内を踏破して史料を収集した。現在、膨大な史料が県立図書館に保存されているが、私はたまたま、その史料に接する機会があつた。古文書、行政資料、地元に残る記録資料、古い新聞記事、写真などで、貴重である。生涯をかけて収集したものを、学び活かせるよう後世に残していただきたいことに、感謝申し上げたい。車社会でない時代、史料収集に汽車とバスと徒歩で現地へ、数人の学生が同行することがあつたが、歴史研究の原点は現場主義である、と私は気付いた。

歴史学に限らず学問は、理論と具体的事実が一致することが、肝要である。鍛えられた理論をつかうと、見えないものでも見えてくる。他方、理論が現実から乖離してしまうと光彩を失なう。赴任当初の先生は、理論が先行していたが、やがて理論から個別具体的なものに、軸足が移った。それは思考が柔軟であること、「わかる」に徹底してこだわった、ということであろう。

一九六八年は明治維新から百年に当たるので、島根県は記念事業

として『島根の維新百傑』の刊行を決めた。早速、有識者会議がくられ、百傑の選定・執筆、やがて刊行された。それから半世紀過ぎたいま、どれだけの人が生き残れるだろうか。この会議では、古い価値観のもと人選が進行し、委員の一人であつた先生は異を唱えた。そして対案として石見の農事改良家・安井好尚を提示したが、会議はこれを受け入れなかつたので、先生は委員辞職を申し出、席を蹴つて退場した。我慢にも限界があるというのであつた。この時期に、自由民権運動史、県史・町村史や県議会史などを著して、島根の近代史研究に大きな金字塔を打ち立てた。

さて、いつのころからか史料収集の拠点を自治労自治研に置いた。この位置は、行政と地域との両方から距離が近く、多くの情報をつかみとるのに好都合であつた。また、そこから日本がいま、抱えているいろいろな問題を構図方式で探った。光と影がぶつかり合う様相を、表舞台で活躍する人々の側でなく、その対極にあるものに照準を合わせた。つらい過去を引きずる在日韓国・朝鮮人問題、日常の生活が崩壊した過疎地域、停滞する裏日本側の地方都市など。現地の人々との話し合い、荒廃した風景、臨場感をつうじて、先生は研究者としての責任と覚悟をせまられたと思う。これらの過去と現在を検討し、さらに将来に向けた近未来図を描いた。それは環日本海圏の構想であるが、現実には「絵に描いたモチ」であるが、長期的な観点から見ると妙にリアルである。先生は、その内容を盛る過程

で、国際政治の最前線に突き当たった。竹島の領有権をめぐる問題で、先生は仮説を提示したが、圧倒的多数を敵に回して孤立無援のなかを疾走した。人生最高のドラマと言いたいところであるが、現実はそのものではない。神奈川県湯河原町で療養中の先生を見舞った元教授に、身の危険を感じている、と語ったという。

一般的なことだが、政治は時間を区切って議論し、多数決で事を決めるが、学問はそんなものではない。可能な限りの多くの史料を収集し、検討し、正確に歴史を解釈しなければならない。

先生の座右銘は、「得意泰然、失意平然」であるが、いま問われたら、どう答えられるだろうか。ありがとうございます。お疲れさまでした。

(二〇一三年七月七日)

内藤正中先生の業績を思う

竹 永 三 男

本学会長を長く務めていただいた内藤正中先生が逝去された。

内藤正中先生は、一九二九年七月一三日に岡山県で生まれ、一九五三年京都大学経済学部を卒業し、一九五五年四月、島根大学文学部に赴任された。その後、一九三九年に助教、一九六八年に教授に昇任され、一九九三年三月末日に島根大学法文学部を定年退職された。この間、島根大学に在職されること実に三十七年に及ぶ。島根大学赴任後の研究活動については、森安章氏の追悼文に具体的に記されている。私事にわたるが、私が島根大学に赴任したのが一九八一年七月であるから、私自身も一年余にわたってお世話になった。

内藤先生の研究業績の特色は、①自由民権運動史・社会経済史を軸とした歴史学研究、②地域経済の現状分析、③環日本海諸国間の国際交流史研究と在日韓国・朝鮮人史研究、④竹島の帰属に関する歴史的研究という4つの主題を軸に、これに関する幅広い問題が研究对象とされていることである。そこで注目されるのは、①と②の各研究分野におけるそれぞれの研究課題が相互連関的に組み立てられているとともに、①・②から③さらに④へと発展的に展開されていることである。そして、こうした研究の全体を貫いているのは、第一に、山陰地域を一貫して分析対象の中核に据えていること、第二に、それを狭い地域の枠組みに限定せず、近代化の中での地域格差とそれに対する「後進性への挑戦」をめざす主体とその取り組みの析出という方法的視点に立つことによって、地域の内在的発展を

重視する研究潮流に棹さしつつ、「裏日本」の歴史的形成立論（古厩忠夫『裏日本』岩波書店、一九九七年。阿部恒久『裏日本』はいかにつくられたか』日本経済評論社、一九九七年）の先駆けとなる研究として進めたこと、そして第三に、「内なる国際化」論を提唱し、歴史的事実を発掘・分析・叙述するとともに、島根県の施策を導出して環日本海国際学術・文化交流を実現し、これを一六年間にわたって主導したことである。

この中、①の研究成果は、国会開設運動の生成―発展の全体構造を実証的に解明した『自由民権運動の研究』（青木書店、一九六四年）として発表され、「県議路線」という運動主体を析出したものとして自由民権運動史の研究史上今日でも学界でなお高く評価されている。この「県議」という地域主体を析出した歴史的分析の視点は、過疎問題・地域農業の発展という現状分析研究にも活かされ、『山陰の地域開発』（一九六四年）『過疎と新産都』（一九六八年）『過疎対策』（一九七一年。いずれも今井書店）として次々に発表された。これらの著作は、過疎の克服をめざす地域住民と地域行政に大きな励ましを与え続けたものであった。こうした広範囲に及ぶ内藤先生の研究は、『新修島根県史 通史編近代』（島根県、一九六七年）、『島根県の百年』（山川出版社、一九八二年）などとして集大成され、島根県と島根県民にその学術研究の成果が還元されている。山陰地域の歴史研究と現状分析を進めた内藤先生は、日韓・日朝関係の歴史と現状を「内」と「外」の両面から分析する研究へとそ

の研究対象を広げていかれた。その成果として生み出された③の研究成果は、科学研究費補助金（一般研究B、一九八六〜八八年度）による「日本海地域における在日朝鮮人問題の歴史的・経済的研究」として進められ、『日本海地域の在日朝鮮人』（多賀出版、一九八九年）、『鳥取県下在日コリアンの歴史』（鳥取短期大学北東アジア文化研究所、二〇〇四年）として発表された。そしてその一方、延べ一八回に及ぶ環日本海松江国際交流会議（島根県・松江市・島根大学・山陰放送の四者で組織した実行委員会主催）とその報告書、『山陰の日朝関係史』（報光社、一九九三年）などとしてまとめられた。こうした研究の上に立って、その後続けて、『竹島（鬱陵島）をめぐる日朝関係史』（多賀出版、二〇〇〇年）を始めとする竹島（韓国名・独島）の領土帰属問題とその歴史的背景に関する研究に精力的に取り組まれた。内藤先生の真骨頂は、現実の領土問題という微妙で先鋭な案件についても、自身の実証研究で得た成果をもとに、果敢に発言し続けられたことにも現れている。

また、学会活動でも、赴任後に県内において研究の組織的展開を進める一方、一九九三年に島根大学を退官するまでの間、地方史研究協議会評議員を一九六二年から一九九三年まで、たたら研究会委員を一九六八年から一九九三年まで、日本海学会理事を一九七五年から一九九三年まで、社会経済史学会中四国部会理事を一九七五年から一九九三年までそれぞれ務め、中国地方・山陰地域の歴史学研究の組織的発展のために尽力された。この間、島根史学会においても会長を引き受けていただき、島根県立文書館（仮）設立を求める要請活動などに先頭に立って取り組んでいた。今日、島根県公文書センターとして実現した島根県における記録資料保存体制の一定の整備は、こうした先生のご尽力によるところが大きい。

以上のように、内藤先生は、その歴史学・経済政策学を中心とした学術研究、その研究を基礎とした学生教育と地域研究会の組織化、

国際学術・文化交流という多方面にわたって大きな功績をあげられた。

そのような内藤先生の業績は、先生がまだ若いときから、最も近いところで見えてこられ、また、島根県・山陰の地域史研究とともに進めてこられた森安章氏の本号所載の追悼文と、同じく森安章氏が整理・作成された、島根県立図書館所蔵内藤正文庫（文書史料）の「目録」に示されている。この「目録」をもとに、内藤先生が収集・整理された史料群を研究に活用することが、内藤先生から受けた学恩に応えることであり、また、内藤先生が最も望んでおられたことであると思う。

内藤文庫 (島根県立図書館所蔵)

本文庫は、島根大学名誉教授内藤正中先生の旧蔵書であり、『島根県立図書館要覧 平成25年度版』(島根県立図書館、2013年6月)によると、島根県の近代史、社会経済史、労働運動史、日韓関係史などの著書と、編纂にかかわられた県史、県議会史、市町村史などの収集資料、商工会議所などの団体史関係資料、明治時代の新聞、統計書などから構成されている。今回掲載の資料目録は、森安 章氏が文庫中29箱分を調査され、資料の概要を付して目録にしたものである。資料は、ペン書の原文書のほかに、新聞、書籍などのコピー、パンフレット、写真など多種にわたり、今後、入手することが難しいものも多く、貴重な資料群と考えられる。(文責：鳥谷智文)

島根県立図書館所蔵「内藤文庫」資料目録(概要版)

箱	資料番号 フリール	資料 枝番	資 料 名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発 行 年月日	発行場所	形 状			備 考	採録者	採 録 年月日	
									印刷物	原文書	用 紙				
1	1	1	松江商工叢報 42, 44～49号	商工叢報コピー、封筒1・内箱7 計8点	大田直行	松江商工 会議所	大正13 ～14年		雑誌		段ボール 箱			森安章	2012.12.19
1	1	2	松江商工叢報 1～14号	商工叢報コピー	原恒三郎	松江商工 会議所	明治43年 7月～大正 7年5月		雑誌					森安章	2012.12.19
1	1	3	松江商工叢報 15～31号	商工叢報コピー	織原周蔵	松江商工 会議所	大正8年 1月～ 11年11月		雑誌		段ボール 箱			森安章	2012.12.19
1	1	4	松江商工叢報 32～41号	商工叢報コピー	大田直行	松江商工 会議所	大正12年 7月～ 14年1月				段ボール 箱			森安章	2012.12.19
1	1	5	松江商工叢報	商工叢報コピー	大田直行	松江商工 会議所	大正7年 ～昭和8年		雑誌		段ボール 箱			森安章	2012.12.19
1	1	6	松江商工叢報	商工叢報コピー	大田直行	松江商工 会議所	昭和8年 ～14年				段ボール 箱			森安章	2012.12.19
1	2	1	松江商工会議所報 告	商工会議所マイクログラフ ルム			昭和28年 6月		マイクログラ フ ルム		段ボール 箱			森安章	2012.12.19
2	1	1	12年通常会 会	勸業費之義二付建白、植物試験 場、計総3点			明治13 ～15年				洋紙・段 ボール箱			森安章	2012.12.19
2	2	1	選挙	自由党岡山勇派党员・支持者、帝 国党党员名簿							洋紙・段 ボール箱	人物評論 など		森安章	2012.12.19
2	3	1	行政(町村)	郡令達、郡訓令、市町村会、松江市 事務機構の要達、地方改良必行事項			明治28年				洋紙・段 ボール箱			森安章	2012.12.19
2	3	2	行政(町村)	市町村長会決議録、鹿足郡訓示・ 指示、諸問、簸川郡訓令・訓示			大正7年 ～昭和13年		コピー 写真		洋紙・段 ボール箱			森安章	2012.12.19
2	3	3	行政(町村長会) 大正7年第1回～	市町村長会決議録、鹿足郡訓令・ 指示、諸問、簸川郡訓令・訓示			大正7年 ～		パンフレット		洋紙			森安章	2012.12.19

資料番号	資料種番	資料名	内 容 概 略	著 者 等	発 行 者 等	発 行 年 月 日	発 行 場 所	形 状			備 考	採 録 者	採 録 年 月 日
								印刷物	原文書	用 紙			
2	3	4	行政(県政)	明治19年水書表、加藤一柳氏について、米と籾の社会経済構造、県庁焼打事件、県初選	内藤正中			騰字印刷	ペン書き	洋紙		森安章	2013.1.10
2	4	1	八川村誌稿	村の政治指導者の土地所有					ペン書き	洋紙		森安章	2013.1.10
3	1	1	金城村要覧	石見神楽、計7点	金城村	昭和61年		パンフレット	ペン書き	封筒入り		森安章	2013.1.12
3	2	1	金城特産	特産振興対策基本条例、計7点	金城町			パンフレット	ペン書き	封筒入り		森安章	2013.1.12
3	2	2	金城特産	農業農村活性化農業構造改善計画概説書 計4点	金城村	平成5年		パンフレット	ペン書き	封筒入り		森安章	2013.1.12
3	3	1	町広報ひきみ縮刷版	山村集落の現状とその振興 計12点	匹見町	昭和30年6月～39年12月		書籍・パンフレット・コピー	ペン書き	封筒入り		森安章	2013.1.12
4	1	1	勲業(島根県農業史)	明治前期における島根県の産業、米の播種及収穫時期 M17種、農業資本、島根県産業組合史、木材採問志の経歴、農民運動資料	藤沢秀晴等 明治・大正・昭和			書籍・パンフレット・墨写本・新聞記事(コピー・写真)	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.1.16
4	1	2	勲業(鏡川農業)	農業水利改良事業の展開と水利慣行、小作人の苦情	島根農科大学	明治18～21年		抜刷・写真	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.1.16
4	1	3	勲業(殖産十年計画)	興業意見、勲業協議会諮問抜		明治18年		写真・コピー	新聞	封筒入り		森安章	2013.1.16
4	1	4	県史(地主)	出雲国各郡耕地地々師老万円以上所有之富豪一覧表		明治期		パンフレット	ペン書き	和紙		森安章	2013.2.6
4	1	5	地主資料	大日本農会総裁表彰篤農家、貴族院多額納税者議員互選人員				雑誌	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.6
4	1	6	明治老農の農法	林遠里演説会、船津広次平農事演説				パンフレット	ペン書き	和紙・洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.6
4	1	7	県勲業諮問会各郡勲業委員会					写真	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.6
4	1	8	勲業	稲種水選関係、県私立勲業会、県知事「殖産」大意、中外広間新報、大麻		明治12～19年		パンフレット	ペン書き	和紙・洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8
4	1	9	勲業(農業経営)	経営反別、小作関係など		明治26年		ペン書き	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8
4	1	10	階層表	貴衆院選挙権者、土地所有規模別、小作地率、「農家耕地及小作料二開スル調査」		明治41年・昭和1年		ペン書き・鉛筆書き	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8
4	1	11	勲業(農家)	農会、勲業会、農事雑誌		明治30年以前		雑誌	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8
4	1	12	勲業(産業別人口)	小川村関係		明治21年・昭和5年		ペン書き	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8

箱	資料番号 7/14	資料枝番	資料名	内容概略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形状			備考	採録者	採録年月日
									印刷物	原文書	用紙			
4	1	13	勸業(米麦)	畑道村関係			明治43～ 昭和13年		ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8	
4	1	14	勸業(農業)	畑道村、小川村			明治22年・ 昭和8年		ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8	
4	1	15	勸業	平田木綿盛衰			明治17年・ 明治22年		写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8	
4	1	16	勸業(斐山村農地改革調査資料)				昭和25年		ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8	
4	1	17	勸業(老衆)	斉藤勝広			明治27年		書籍・コピー	和紙・洋紙・封筒入り		森安章	2013.2.8	
5	1	1	新聞収集	松江市内の物価騰へ、赤化教員治安維持法違反事件、労農党関係者検束		山陰新聞社	昭和6～ 10年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.13	
5	1	2	新聞収集	教員俸給の不払、出稼人、軍事インフレ、県海外協会設立、国民精神作興週間		山陰新聞社	昭和11～ 13年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.13	
5	1	3	新聞収集	農事実行組合、松江片倉製糸紡績会社、小作組合解体		山陰新聞社	昭和14～ 15年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.13	
5	1	4	新聞収集	県壮年団、卸小売業組合再編成、松江米子銀行合併、島根新聞創刊、県食糧営団		山陰新聞社、島根新聞社	昭和16～ 17年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.13	
5	1	5	新聞収集	戦力増強、拓満青少年義勇軍、石西地方水害、県下代地主一覽		島根新聞社	昭和18年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.13	
5	1	6	新聞収集	松江市人員疎開		島根新聞社	昭和19～ 20年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.13	
6	1	1	スクラップ・ブック No. 1			島根新聞など各紙	昭和32～ 39年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	
6	1	2	スクラップ・ブック No. 2			島根新聞など	昭和29～ 44年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	
6	1	3	スクラップ・ブック No. 3			島根新聞など	昭和45～ 48年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	
6	1	4	スクラップ・ブック No. 4			日本海新聞など	昭和48～ 50年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	
6	1	5	スクラップ・ブック No. 5	衆議院地方行政委員会参考人供述		山陰中央新報など	昭和22年7月 22日～翌年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	
6	1	6	スクラップ・ブック No. 6			新日本海新聞	昭和52～ 54年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	
6	1	7	スクラップ・ブック No. 7			中国新聞など	昭和54～ 56年		新聞記事	洋紙		森安章	2013.2.15	

箱 No.	資料番号	資料 枝番	資 料 名	内 容 概 略	著 者 等	発 行 者 等	発 行 年 月 日	発 行 場 所	形 状			備 考	採 録 者	採 録 年 月 日
									印刷物	原文書	用 紙			
6	1	8	スクラップ・ブック No. 8		内藤正中	山陽新聞 ほか	昭和56 ～58年		新聞記事		洋紙		森安章	2013.2.15
6	1	9	スクラップ・ブック No. 9		内藤正中	日本海新聞 ほか	昭和59 ～62年		新聞記事		洋紙		森安章	2013.2.15
6	1	10	スクラップ・ブック No. 10		内藤正中	山陽新聞 ほか	昭和62～ 平成2年		新聞記事		洋紙		森安章	2013.2.15
6	1	11	スクラップ・ブック No. 11		内藤正中	朝日新聞	平成2 ～4年		新聞記事		洋紙		森安章	2013.2.15
6	1	12	スクラップ・ブック No. 12		内藤正中	山陰中央 新報ほか	平成5年		新聞記事		洋紙		森安章	2013.2.15
6	1	13	スクラップ・ブック No. 13		内藤正中	朝日新聞 ほか	平成7 ～13年		新聞記事		洋紙		森安章	2013.2.15
7	1	1	過疎法	島根要綱案に対して各県意見原文、 島根県議会会議録、要望書、過疎 地域対策緊急措置法関係資料			昭和43 ～44年		書籍・雑誌・ 抜刷・コピー	ペン書き・ 鉛筆書き・ コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	2	1	六日市町行革	行革レポート、行革審のその基本 的態度		六日市町職 員労働組合	昭和62年		パンフレット・騰 写印刷・コピー	ペン書き・鉛 筆書き・コピ ー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	3	1	市町村職自治研賃 金闘争				昭和61 ～63年		パンフレット・騰 写印刷	鉛筆書き ・コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	4	1	エコノミスト	新長期経済計画特集		毎日新聞 社	昭和42年 3月14日		雑誌		洋紙		森安章	2013.3.3
7	5	1	六日市町職員史	資料、追加原稿			昭和43年		パンフレット	鉛筆書き	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	6	1	自治労券本部	定期大会議案		自治労島 根県本部	昭和36 ～39年		パンフレット ・騰写印刷		洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	7	1	総動員体制			山陰新聞 社	昭和12 ～20年		新聞記事		洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	8	1	平民新聞、直言	島根県関係記事			昭和36 ～38年		新聞記事・ コピー		洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	9	1	小野組	殖産興業(生糸)		島根県庁	明治8年			ペン書き	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	10	1	地方官会議			東京日日 新聞社	明治11年		新聞記事	ペン書き	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	11	1	島根県地租改正	維新期の土地租税問題、島根県甲号達、明 治初期の島根県に於ける耕地関係法蘭の研究					雑誌・騰写 印刷	ペン書き	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3
7	12	1	参事員裁定書				明治15年			ペン書き	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.3

箱 7/10	資料番号	資料枝番	資料名	内容概略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形状		備考	採録者	採録年月日
									印刷物	原文書			
8	1	1	外国人登録(島根・鳥取)				平成4～13年		新聞記事・コピー	洋紙・封筒入り	特高月報 コピー	森安章	2013.3.6
8	2	1	国際交流	環日本海圏における山陰の地位と役割		島根県、自治体 島根	昭和63年3月		雑誌・パンフレット	洋紙		森安章	2013.3.6
8	3	1	在日処遇改善	国際条項撤廃を巡る自治体の動向			平成4～5年		雑誌・抜刷・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	4	1	強制連行、慰安婦	強制連行された朝鮮人、朝鮮人の生活			平成9年		パンフレット・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	5	1	在日(島根)	島根県の在日朝鮮人			昭和62年		雑誌・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	6	1	島根県人権尊重の 社会づくり	倉吉あらゆる差別			平成9年		パンフレット・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	7	1	在留外国人統計	戦前期府県別在日朝鮮人の推移			平成11年		コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	8	1	定住外国人の処遇 改善			朝鮮時報	平成3年		新聞記事・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	9	1	人権保障	在日外国人の問題状況			平成4年		コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	10	1	民団差別白書				昭和59年		コピー・新聞記事	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	11	1	在日参政権	外国人の地方参政権の法的性格		季刊 財政研究	平成12年		コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	12	1	在日民族教育				昭和46～50年		パンフレット・新聞記事・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.6
8	13	1	松江・意識調査	出雲に住む人のイメージ			昭和46～50年		雑誌	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.8
8	14	1	横田算盤	モノリ産地調査報告書、算盤業界の問題点	内藤正中 局商工部	島根県・ 広島通産 局商工部	昭和51年		パンフレット	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.8
8	15	1	国際文化観光都市 建設計画	松江国際文化観光都市建設計画事業概要			昭和51～52年		騰字印刷	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.8
9	1	1	島根県商工会連 合会資料	会員、指導、収入、支出			昭和51～52年		タイプ	鉛筆書き		森安章	2013.3.8
9	1	2	島根県商工会連 合会資料	商工連一覽表			昭和40～51年			洋紙		森安章	2013.3.8
9	2	1	小細工物ひなめいた				天保7年			和紙・封筒入り		森安章	2013.3.8

箱	資料番号		資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形状			備考	採録者	採録年月日
	7/10	資料枝番							印刷物	原文書	用紙			
9	3	1	浜田新聞、石見タイムス				昭和21～35年		新聞コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.8
10	1	1	戦前社会運動	地方別小作争議概要、富山村小作争議史物語、持田村農民騒擾事件、全農成立の意義		山陰改造その他	大正期		雑誌・コピー	ペン書き・コピー	洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	2	戦前社会運動	無産政党		山陰改造	昭和期		雑誌・コピー	ペン書き・コピー	洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	3	戦前社会運動	プロ文化運動	戸山一雄	山陰改造	昭和期		雑誌・コピー	ペン書き・コピー	洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	4	戦前社会運動	能義八束小作連合会、島根県小作連合会役員一覧、日農島根県連合会役員名簿、全農島根県連合会大会議案		小作人など	大正期		パンフレット・コピー	鉛筆書き・コピー	洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	5	戦前社会運動	無産団体機関紙			大正期		パンフレット・コピー	ペン書き・コピー	洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	6	戦前社会運動	運動無名戦士墓合葬者略伝					書籍・コピー		洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	7	戦前社会運動	特高資料			昭和期		書籍・コピー		洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	8	戦前社会運動	大正農民騒擾史料	大阪朝日新聞など		大正期		新聞記事・コピー		洋紙		森安章	2013.3.12
10	1	9	戦前社会運動	労働運動家資料	山陰改造		明治期		雑誌・新聞記事・コピー	ペン書き	洋紙		森安章	2013.3.12
10	2	1	建白書	石見国管轄ノ件建白書、条約改正ノ義ニ付建言、富国強兵ノ義ニ付建白			明治期		墨書・コピー		洋紙		森安章	2013.3.12
10	3	1	県関係巨大事業所従業員待遇法大鑑				大正期		書籍・コピー		洋紙		森安章	2013.3.12
11	1	1	たたら	たたら略史					ペン書き		原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	1	2	雑文書 計4冊	山崎家、三浦家、佐竹家、三浦家の古文書写			江戸期		ペン書き・ノート		洋紙		森安章	2013.3.15
11	1	3	鉄穴場所見分日記 など一括綴				安政4年		鉄筆		洋紙		森安章	2013.3.15
11	1	4	タタラ		邑智郡誌				書籍	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.15
11	1	5	たたら	岡山県に於けるたたら関係文書					ペン書き		ノート		森安章	2013.3.15
11	2	1	八川村絲原家	小作慣行			明治期				原稿用紙		森安章	2013.3.15

資料番号 箱	資料枝番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形態		備考	採録者	採録年月日	
								印刷物	原書				
11	2	2	六川村絲原家	木波鉄管業勘定					ペン書き	原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	2	3	六川村絲原家	絲原家系図、絲原武太郎君伝など					ペン書き	封筒入り・原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	2	4	六川村絲原家	鉄		明治10年～			ペン書き	原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	2	5	六川村絲原家	砂鉄採取作業明細書		明治13年～		謄写印刷	ペン書き	洋紙・封筒入り・原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	2	6	六川村絲原家	土地集積		明治33年～			ペン書き・鉛筆書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.15
11	2	7	六川村絲原家	農業		明治10年～			ペン書き	封筒入り・原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	3	1	六川村人口	大正以降								森安章	2013.3.15
11	3	2	六川村村勢一斑			大正5年～6年			ペン書き	封筒入り・原稿用紙		森安章	2013.3.15
11	4	1	六川村壬申戸籍						ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.15
11	5	1	横田町	地味、人口戸数、決算		明治期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.15
12	1	1	島根鉱山	旧吉田村人口戸数、寛文4年飯石郡萬差出帳		江戸期			ペン書き	洋紙・封筒入り・コピ		森安章	2013.3.19
12	1	2	島根鉱山	大森鉱山の昔話	高田実	昭和42年		謄写印刷・コピ		封筒入り		森安章	2013.3.19
12	1	3	島根鉱山	宝満山鉱山	東出雲町	大正5年			ペン書き・コピ	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19
12	1	4	島根鉱山	笹ヶ谷鉱山		明治期			ペン書き・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19
12	1	4	島根鉱山	笹ヶ谷鉱山 鉱夫取立状		大正期			墨書・ペン書き・コピ	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19
12	1	4	島根鉱山	鉱務者提出書類 笹ヶ谷鉱山沿革	吉永鉱山事務所	大正～昭和8			墨書・ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19
12	2	1	安濃郡養蚕	安濃郡養蚕組合書類		昭和8～12年			墨書	和紙		森安章	2013.3.19
12	3	1	全農、小作問題			山陰新聞、昭和18年 山陰改造			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19

資料番号	資料枝番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形状			備考	採録者	採録年月日
								印刷物	原文書	用紙			
12	4	1	製糸場、出稼、失業		山陰新聞	明治26～昭和6年		ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19	
12	5	1	松江市 商工業、公務員		山陰新聞	明治19～昭和18年		ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.19	
12	6	1	木炭史		島根評論、島根県庁	昭和期		ペン書き	洋紙・封筒入り・コピー		森安章	2013.3.19	
12	7	1	県史水産		島根県公報	明治期		騰写印刷・新聞	洋紙・封筒入り・コピー		森安章	2013.3.19	
12	7	1	県史水産			昭和10年		ペンソフト・写真	封筒入り		森安章	2013.3.19	
12	7	1	県史水産			明治8年		写真	封筒入り		森安章	2013.3.19	
12	8	1	農村工業化			昭和45年		書籍・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.22	
12	9	1	郷土産業調査			昭和11年		雑誌・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.22	
12	10	1	建白書			明治22年		ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.22	
13	1	1	たたら研究			昭和47年		書籍	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.22	
13	2	1	特高月報			昭和5～19年		書籍・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.3.22	
14	1	1	地方自治 計9篇		自治省	昭和50～54年		雑誌・コピー	洋紙		森安章	2013.3.28	
14	1	2	地方財務 計6篇		自治省	昭和51～53年		雑誌・コピー	洋紙		森安章	2013.3.28	
14	2	1	地域構造と過疎現象		山村振興調査会	昭和45年3月		雑誌・コピー	洋紙		森安章	2013.3.28	
14	2	2	広域市町村圏の振興整備の状況			昭和50年		騰写印刷・コピー	洋紙		森安章	2013.3.28	
14	3	1	地域財政		自治省	昭和42年12月		雑誌・コピー	洋紙		森安章	2013.3.28	
14	4	1	島根県歴史附録 母里藩			明治2～4年		書籍・コピー	洋紙		森安章	2013.3.28	

資料番号 箱	資料枝番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形状		備考	採録者	採録年月日
								印刷物	原書			
14	5	1	深田文庫目録			昭和58年 8月		ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	6	1	寺田村外5村部内 状況			明治20 ～29年		ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	7	1	松江商工業報			大正13年 ～		雑誌・コピー 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	8	1	島根評論			昭和3 ～4年		雑誌・コピー 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	9	1	簸川郡高松村農家 経済調査			大正5年		書籍 ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	10	1	市町村雑誌 目次			明治43～ 大正13年		雑誌 ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	10	2	明治文化 目次			大正14～ 昭和19年		書籍 ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	11	1	備中倉敷村関係 計16冊			江戸期		ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
14	12	1	島根県資鑑			昭和10年		書籍・写真 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.28
15	1	1	隠岐牧畑における 共同放牧権と個人 所有権	山岡栄市 社会学評 論				洋紙・封 筒入り	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.30
15	2	1	隠岐概況取調書 など			明治12 ～39年		ペン書き 洋紙	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.30
15	3	1	隠岐島小作慣行調 査書			明治35年		ペン書き 洋紙	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.30
15	4	1	隠岐行政	布施村		昭和3年		写真 洋紙	封筒入り		森安章	2013.3.30
15	5	1	川井村外3ヶ村共 有地入場定約証 査書	大原郡阿 用村		明治11年		ペン書き 和紙	和紙		森安章	2013.3.30
15	6	1	公有地入会関係調 査書	阿用村		明治44年		ペン書き 和紙	和紙・封 筒入り		森安章	2013.3.30
15	7	1	簸川郡内部落有林 野統一			大正3年		ペン書き 洋紙	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.3.30
15	8	1	松江藩財政史「出 入控覽			江戸期		ペン書き 洋紙	洋紙		森安章	2013.3.30

箱 番号	資料番号 資料枝番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行 年月日	発行場所	形		備考	採録者	採録 年月日
								印刷物	原書			
15	9	1	出雲国物産表			明治5年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	10	1	農事調査摘要		島根県内務部	明治21年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	11	1	松江商業会議所諸規定			明治31年		書籍		和紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	12	1	松江商工会議所諸規定			昭和3年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	13	1	島根県商工経済会諸規定			昭和18年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	14	1	雲石隠実費明細調査もの			明治22年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	15	1	隠岐騒動					雑誌		洋紙・封筒入り		森安章 2013.3.30
15	16	1	隠岐文化			明治期～		パンフレット・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.4.2
15	17	1	松江藩資料			江戸期		謄写印刷・新聞記事	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.4.2
15	18	1	米騒動			大正7年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.4.2
15	19	1	農事調査集計			明治～大正期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.4.2
15	20	1	実費明細調査			明治期		雑誌・抜刷	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.4.2
15	21	1	郷土原稿						ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章 2013.4.2
16	1	1	スクラップ			大正2～8年		新聞		洋紙		森安章 2013.4.2
16	1	2	スクラップ			大正7年～10月		新聞・コピー		洋紙		森安章 2013.4.2
16	1	3	スクラップ			昭和2～4年		新聞・コピー		洋紙		森安章 2013.4.2
16	1	4	スクラップ			大正12～15年		新聞・コピー		洋紙		森安章 2013.4.2

資料番号 箱 マ/ル	資料枝番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行 年月日	発行場所	形状			備考	採録者	採録 年月日
								印刷物	原文書	用紙			
16	1	5	スクラップ		山陰新聞	明治26 ～28年		新聞・コピー		洋紙		森安章	2013.4.2
16	1	6	スクラップ		山陰新聞	明治29 ～40年		新聞・コピー		洋紙		森安章	2013.4.2
16	1	7	スクラップ		山陰新聞	昭和23年		新聞・コピー		洋紙		森安章	2013.4.2
16	1	8	スクラップ		島根新報	昭和30年		新聞・コピー		洋紙		森安章	2013.4.2
16	1	9	スクラップ		山陰新聞	昭和29年		新聞・コピー		洋紙		森安章	2013.4.2
17	1	1	工場法	訓示、労働問題		明治期～		新聞・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.3
17	2	1	工業	銀行重役調書、松江郡工場、出雲 彦、松江市工場、出雲社氏組合		明治期～		書籍・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.3
17	3	1	備後タタラ遺蹟			江戸期		書籍・写真		封筒入り		森安章	2013.4.3
17	4	1	鐘	布部村郷土調査				書籍・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.3
17	5	1	木炭	那賀郡木炭同業組合、改良木炭、 製炭業不況対策考		明治期～		書籍・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.3
17	6	1	教育	青年団、山陰大学設立期成同盟会、 松江市内学舎就学及出席比較表、 明治前期の学務		明治期～		パンフレット ・新聞	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.3
17	7	1	畑迫村 堀藤十郎 鉦山	工場表、所有地統計、経費決算仕 訳書		明治期～		パンフレット ・コピー	ペン書き ・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.3
17	8	1	松江駅・北松江駅 列車時刻表	市営バス	文化協会	昭和4年		パンフレット ・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	9	1	三大道路		柳木村庶務部例規	明治16年		墨書・ペン 書き・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	10	1	牛馬関係一括	種付合格証、安井好尚と殖牛社、 興業社則(隠岐)		明治期～		新聞コピー	ペン書き・ 写真・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	11	1	電気	松江電燈KK、隠岐商工業		明治期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	12	1	兵事	浜田連隊設置に関連		明治31年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	13	1	県下の年表	松江市の市政年表、島根県文化史 年表	伊東繁之輔 松江市	昭和初期			コピー 書籍	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5

資料番号	資料枝番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形状		備考	採録者	採録年月日	
								印刷物	原書				
17	14	1	新聞記事			明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	15	1	出稼		農事資料、仁多郡報	明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	16	1	救貧、新生活運動			明治期～			ペン書き・写真・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	17	1	商業			明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	18	1	交通			明治期～			コピー・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	19	1	島根メーデー		山陰新聞、松陽新報	大正期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
17	19	2	各種史料の所在調査						騰写印刷・新聞記事	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.5
18	1	1	米騒動Ⅱ		京大人文科学研究、細川嘉六資料	大正7年			雑誌・新聞記事	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	2	1	選挙			明治25・27・35・36・45年			新聞記事・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	3	1	郡制		県公報	明治期～			墨書・ペン書き・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	4	1	島根県公報			明治20～21年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	4	2	島根県公報			明治19～21年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	5	1	地方制度関係		山陰新聞	明治21～33年			新聞記事	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	5	2	地方制度関係		島根県年報 など	明治12～20年			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	6	1	郡制施行		島根県	明治23～29年			抜刷	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	7	1	八川村歳出入予算決算			明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
18	8	1	行政			昭和期			パソコンソフト・騰写印刷	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.6
19	1	1	佐比売村勸業			明治期			ペン書き・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9

資料番号 7/10	資料仕番	資料名	内容概要	著者等	発行者等	発行 年月日	発行場所	形状			備考	採録者	採録 年月日
								印刷物	原文書	用紙			
19	1 2	佐比売村前期資料				明治～ 大正期		印刷物	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	2 1	平田町蚕糸				明治～ 大正期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	3 1	三瓶調査				明治～ 昭和期			ペン書き ・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	4 1	久木村役場資料	明治38年 小作に関する慣例			明治期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	5 1	出東村関係資料	50町歩以上の大地主調査表、出東村農地改革誌			明治～ 昭和期		書籍	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	6 1	直江村勸業	直江村小作慣行調査書 昭和43年・大正11年・昭和11年			明治～ 昭和期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	7 1	久木村江角文書				明治期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	8 1	高松村調査資料	深田喜美恵「養蚕経営についての研究ノート」、内藤正中「高麗・高嶺農業の確立」			明治～ 大正期		抜刷・謄写 印刷	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	9 1	布部村資料	布部村実力調査表、弘報、布部村合併問題			昭和期		パソコンソフト ・謄写印刷	墨書	和紙・洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	10 1	津和野町産業	累年統計台帳			明治～ 昭和期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	10 2	津和野町養蚕	累年統計台帳			明治～ 昭和期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	11 1	三瓶調査 池原村松尾家・久手村竹下家資料				明治期			ペン書き ・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	12 1	鹿足郡製紙・製茶	製紙伝習所規則、製茶伝習所規則			明治期		パソコンソフト	ペン書き ・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
19	13 1	津和野町行政	財政・交通・林野			大正～ 昭和期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.9
20	1 1	安井好尚関係	履歴書、明治褒賞録			明治期		書籍・コピー	ペン書き	洋紙		森安章	2013.4.9
20	2 1	出雲3ヶ所霊場				明治期				洋紙		森安章	2013.4.10
20	3 1	邑智・那賀郡階層表(地飾)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	3 2	鹿足・美濃郡階層表(地飾)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10

箱	資料番号 7/14	資料仕番	資 料 名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発 行 年 月 日	発行場所	形 状			備 考	採録者	採 録 年 月 日
									印刷物	原文書	用 紙			
20	3	3	能義・隠岐階層表 (地冊)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	3	4	大原・飯石・仁多 郡階層表(地冊)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	3	5	瀬摩・安濃郡階層 表(地冊)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	3	6	松江市・八束郡階 層表(地冊)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	3	7	鯉川郡階層表(地 冊)				明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	4	1	銀行	銀行役員所有地冊			明治～ 大正期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	4	2	銀行	銀行会社重役調査、県告示、株主人名、営業報告書 出雲外2郡蚕種繭糸共進会、県告示、郡告示、鯉川郡蚕業同業組合 定款、繭市場			明治～ 大正期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	5	1	養蚕				明治期～			写真			森安章	2013.4.10
20	5	2	養蚕	昭和3年繭産額番付、島根県の蚕繭及茶畑			明治期～			書籍・写真			森安章	2013.4.10
20	6	1	平田町・津和野町 製糸、知井宮山本 製糸	津和野製糸工場規程、平田町製糸、 平田製糸			明治期～			ペン書き ・写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
20	7	1	知井宮村 山本文 書	田畑町反見米寄帳			江戸期			ペン書き	洋紙		森安章	2013.4.10
20	8	1	小作慣行調査	梅原千松「小作慣行論」、各郡小作 慣行調査			明治期～			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.10
21	1	1	自由民権運動	山陰自由党員名簿、島根県議会議 誌、波根村小原鉄臣			明治期			ペン書き	和紙・洋紙・ 封筒入り		森安章	2013.4.12
21	1	2	自由民権運動、府 県会	自由党の成立、府県会史資料			明治期			ペン書き	和紙・洋紙・ 封筒入り		森安章	2013.4.12
21	1	3	自由民権運動(全 国)	明治13年地方官会議			明治期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	1	4	自由民権運動	山陰地域の政社の動向			明治期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	2	1	隠岐航路史				明治～ 大正期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	2	2	隠岐航路史				明治～ 大正期			ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12

資料番号	資料枝番	資料名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形 状			備考	採録者	採 録 年 月 日
								印刷物	原文書	用 紙			
21	3	1	埠港航路、貿易		因伯時報	大正期		新聞記事	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	4	1	密航、木炭		島根新聞、島根県報	大正～昭和期		書籍・新聞記事	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	5	1	農家経済調査		県内務部	大正～昭和期		書籍・抜刷	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	5	2	農家経済調査		松江府附近の自作農家	大正2～4年		書籍		洋紙		森安章	2013.4.12
21	5	3	農家経済調査累計・統計表		農林省	大正10～昭和36年		書籍・謄写印刷		洋紙		森安章	2013.4.12
21	6	1	大庭村黒田畦部落調査		県農会	大正8年		雑誌・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
21	7	1	松平不味		島根女子短期大学紀要			書籍・新聞記事・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.12
22	1	1	石見銀山と朝鮮		郷土石見山陰新聞	明治期～		抜刷・パンフレット・写真	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	2	1	自治労県本部自治研			昭和40年		謄写印刷				森安章	2013.4.13
22	2	2	県本部自治研			昭和43年		抜刷・パンフレット	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	3	1	日本海時代の米子			昭和期		雑誌・抜刷・新聞		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	4	1	農民運動		吉岡古典	昭和期		抜刷・パンフレット・コピー		封筒入り		森安章	2013.4.13
22	5	1	満州移民と島根			昭和16年		新聞・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	6	1	在朝鮮・満州活動県人		山陰新聞	大正15年		新聞・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	7	1	寄贈抜刷一括					抜刷・コピー	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	7	2	寄贈抜刷		笠井助治	昭和期		抜刷・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	8	1	県報			昭和20～21年		コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13
22	9	1	糸原・安来日立の写真		NHK松江			写真・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13

箱	資料番号		資料名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形 状			備 考	採録者	採 録 年 月 日
	747/4	資料枝番							印刷物	原文書	用 紙			
22	10	1	労働運動	石見国銀山嶺の城米輸送、船問屋と北前船 など		山陰新聞、松島新報	大正1年～9年		新聞・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
22	11	1	日本海交通				江戸期		書籍・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
22	12	1	日本全国商工人名録(島根・鳥取)				明治31年		書籍・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
22	13	1	平民新聞、光		岡起雲		明治37年		新聞・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
22	14	1	島根県庁焼打			朝日新聞	昭和20年8月		新聞・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
22	15	1	大社中学 朝鮮修学旅行				平成10年		書籍・抜刷・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
22	16	1	陰陽経済交流	地方の時代と広島・島根			平成期		パンフレット・新聞	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.13	
23	1	1	新聞収集			山陰新聞	昭和27年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	2	新聞収集			山陰新聞	昭和28年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	3	新聞収集				昭和26年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	4	新聞収集			島根新聞	昭和25年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	5	新聞収集				昭和29年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	6	新聞収集				昭和24年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	7	新聞収集			島根新聞	昭和25年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	1	8	新聞収集				昭和30年		新聞	洋紙		森安章	2013.4.16	
23	2	1	松江高等学校雇人組合 規約				昭和22年					森安章	2013.4.16	
24	1	1	過疎財政				昭和40年～		パンフレット・書籍・鉛筆書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.17	
24	1	2	過疎	匹見町、島根県の世帯および人口概数		自治研究、地方財政、日本経済新聞	昭和43年～		抜刷・パンフレット・騰写印刷・コピー	洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.17	

資料番号 箱	資料枝番 7/10	資料名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発行 年月日	発行場所	形 状		備 考	採録者	採 録 年月日
								印刷物	原文書			
24	1	3	過疎 匹見町議会議事録	内藤正中	地方自治、 島根県、月 刊自治研、 島根の統計	昭和43 ～44年		雑誌・パンフ レット・コピー ・新聞	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.17
24	1	4	過疎 県単過疎、山振、人口急減		島根県	昭和43 ～44年		パンフレット ・コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.17
24	1	5	過疎 政治意識	久松昌庵	自治研究、 月刊自治研	昭和43年		抜刷・コピー	洋紙		森安章	2013.4.17
24	1	6	過疎		行政監察 月報	昭和41 ～42年		抜刷・コピー			森安章	2013.4.17
24	1	7	過疎 過疎地域の現状と対策		産業開発 道路協	昭和44年		雑誌・抜刷・ コピー	封筒入り		森安章	2013.4.17
24	1	8	過疎 過疎地域の現状と対策		過疎白書	昭和46年		コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.17
24	2	1	斐川村・三隅町基 礎調査		農業会議	昭和30年		書籍	洋紙・フア イール		森安章	2013.4.17
24	3	1	新聞収集	匹見町関係記事	中国新聞	昭和59年		新聞記事	フアイール		森安章	2013.4.17
25	1	1	島根県社会事業、島 根県水産試験場紀要		島根県	大正期 昭和初期		書籍・コピー 書籍・パン フレット	洋紙・フア イール		森安章	2013.4.19
25	1	2	社会事業	松江市山陰慈育家庭学院、児童福 祉施設、社会福祉事業		大正～ 昭和期		書籍	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	2	1	医療	島根県松江病院一覽		明治44年		書籍	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	3	1	日本資本主義確立期の 地域経済構造(真日本)	就史総覽、経済地理学年報	内藤正中、 安良城盛昭	明治期～		抜刷・コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	4	1	県政綱領	社会党、共産党の主張		昭和53年		抜刷・コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	5	1	住民税所得割	島根県市町村別		昭和53 ～56年		コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	6	1	島根県人口統計 (広域圏)			昭和44年		コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	7	1	選挙	戦前普選	内務省警保 局、不二出版	大正15～ 昭和初期		書籍・コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	8	1	統計	戦前労働争議、職工、組合		大正～ 昭和期		コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19
25	8	2	統計	山陰中央地域の概要、地域振興施 策		昭和62年		書籍・コピー	洋紙・封 筒入り		森安章	2013.4.19

資料番号	資料種別	資料名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形 状			備 考	採録者	採 録 日
								印刷物	原文書	用 紙			
25	9	1	島根県労働組合一覽表		島根県	昭和21～22年		騰写印刷・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
25	10	1	通信			昭和34年		新聞		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
25	11	1	農会報発行年一覽			明治31～昭和11年	島根大学竹崎文庫			洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
25	12	1	勸業			昭和17年		パンフレット		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
25	12	2	勸業			昭和8年		書籍・新聞・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
25	12	3	勸業			昭和8年		雑誌・新聞		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
25	13	1	新聞収集	安来日立の足どり	加藤隆爾	昭和57～60年		新聞		洋紙・封筒入り		森安章	2013.4.19
26	1	1	新聞収集			明治20～25年		コピー		洋紙		森安章	2013.5.1
26	1	2	新聞収集			昭和31年		新聞切抜		洋紙		森安章	2013.5.1
26	1	3	新聞収集			昭和32年		切抜		洋紙		森安章	2013.5.1
26	1	4	新聞収集			昭和33年		切抜		洋紙		森安章	2013.5.1
26	1	5	新聞収集			昭和34年		切抜		洋紙		森安章	2013.5.1
26	1	6	新聞収集			昭和35年		切抜		洋紙		森安章	2013.5.1
27	1	1	NHK・CTV中国地方歴史特集	玄丹おかよ		昭和56年1月28日				封筒入り	JOTK 総合TV 台本	森安章	2013.5.1
27	2	1	漢字三音考	小篠敏の序文		天明4年		書籍		和紙・封筒入り		森安章	2013.5.1
27	3	1	徳島木頭			江戸期				和紙・封筒入り		森安章	2013.5.1
27	4	1	酒津村(地主制)	梶谷家資料		明治～昭和期		騰写印刷		洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.1
27	5	1	戸津川郷	産物取調帳		江戸～昭和期		騰写印刷		和紙・洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.1

資料番号 架/資料番号	資料名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形 状			備 考	採録者	採 録 日
							印刷物	原文書	用 紙			
27	倉敷関係資料				江戸～昭和初期		書籍	ペン書き	洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.1
27	牛窓町服部家資料	地主制			明治～昭和初期		謄写印刷	ペン書き	洋紙		森安章	2013.5.1
28	福祉	平田市助け合い制度	平田市		平成4年		パンフレット		洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
28	福祉	松江市高齢者対策	松江市		平成期		抜刷・コピー		洋紙		森安章	2013.5.3
28	雇用	Uターン希望調査結果報告	島根県		平成期		書籍・パンフレット・コピー		洋紙		森安章	2013.5.3
28	経済振興策	鳥取県西部地域工業団地関係			昭和51年		パンフレット		洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
28	経済振興策	境港外港内団地地区埋立事業	鳥取県		昭和51年		パンフレット・コピー		洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
28	経済振興策	米子市商業、鳥取県における町村商業の位置	鳥取県		昭和53年		パンフレット		洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
28	経済振興策	中国地域の都市機能(松江市など)			昭和49年		抜刷		洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
29	勸業	殖産10年計画、郡長訓示、丸山・高岡知事請渡書			明治42年		謄写印刷・写真	ペン書き	和紙・洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
29	松江大橋				明治～昭和初期			写真	洋紙・封筒入り		森安章	2013.5.3
29	地方官会同	浜田県合佐藤信寛会同議事二付建白、職員録の一部			明治8年			封筒入り・写真・コピー			森安章	2013.5.3
29	鳥根県庁舎・県会議事堂	県庁焼打事件			明治～昭和初期			写真			森安章	2013.5.3
29	山陰新聞社・松陽新聞社屋				明治期		新聞	封筒入り・写真・コピー			森安章	2013.5.3
29	近現代松江のコラム	小泉入雲と鳥根県の雇用契約書など			明治～昭和初期			ペン書き	洋紙・封筒入り・写真・コピー		森安章	2013.5.3
29	近現代① 鳥根の明治維新	松江市役所(明治26年新築)・市会議事所、鳥根新聞誌第1号、若槻礼次郎の月給領収書(大谷小)			明治期		コピー		洋紙・封筒入り・写真・コピー		森安章	2013.5.4
29	近現代② 資本主義社会と裏日本	阪鶴丸、鉄道開通、人力車			明治～昭和初期				洋紙・封筒入り・写真・コピー		森安章	2013.5.4

箱	資料番号		資料名	内 容 概 略	著者等	発行者等	発行年月日	発行場所	形 状		備考	採録者	採録年月日
	7/10	資料枝番							印刷物	原文書			
29	6	4	近現代③ 地域振興への挑戦	高畦昔舊法、全農島根県連のピラ、笹ヶ谷銅山			明治～昭和期					森安章	2013.5.4
29	6	5	近現代④ 戦争と県民生活	福田狂二のボスター、県政一般政策、福田理三郎県会議員立候補挨拶			昭和期					森安章	2013.5.5
29	6	6	近現代⑤ 新しい島根をめざして	連合軍占領下の出雲市、在日韓国・朝鮮人への差別、廃屋			昭和期～					森安章	2013.5.5
29	7	1	近世コラム	松江市街全図(明治36年)、瀬摩郡役所、松江の茶室、出雲大社正遷座之図			江戸期～					森安章	2013.5.5
29	7	2	近世① 山陰の城下町	浜田県庁門、松江城郭絵図、津和野・瀧家を屋敷門			江戸期～					森安章	2013.5.5
29	7	3	近世② 農民の仕事と暮らし	大森銀山遺跡、木実方役所表門、田法記、免法記			江戸期～					森安章	2013.5.5
29	7	4	近世③ 新時代への胎動	朝日丹波、会津屋入右衛門、中村了三、蘭学、大日本海陸全図(文久4年)、大國隆正			江戸期～					森安章	2013.5.5
29	8	1	序説 地域からの興日本海関係史	大御国環海私図、朝鮮よりの漂流物、級助された朝鮮人			江戸期		墨書	洋紙封筒入り		森安章	2013.5.5

〔編集後記〕

『島根史学会会報』第五二号をお届けいたします。本号には、論説として猪飼隆明氏に、松江城山の「西南戦争戦死者記念碑」について、西南戦争の状況を紹介しつつ、戦死者数の分析を行っていただきました。

また、藤澤秀晴氏は、第五一号に引き続き松江藩の銀札の貨幣価値についての続編を論じていただきました。

最後に、近年ご逝去されました内藤正中先生の追悼特集をくみました。森安 章氏による追悼文、竹中三男氏による先生の業績紹介、森安氏採録による島根県立図書館所蔵の内藤文庫資料目録を掲載しております。

今回の会誌も前回に引き続き充実した内容です。ぜひご味読下さい。島根史学会では、より一層の会報の充実をはかっていきたいと考えております。そのためには、会員の皆様からの積極的なご投稿が必要不可欠です。論考、史料紹介、研究動向、書評などご投稿をお願い申し上げます。

(T)

「島根史学会会報」第五二号 二〇一四年十二月二〇日発行
編集・発行 島根史学会（会長・井上寛司）

（〒六九〇―八五〇四 松江市西川津町一〇六〇）

島根大学法学部歴史と考古コース気付

電話（〇八五二）三二一六一九七

振替口座 松江 〇一四七〇―〇一八九八四

印刷 ㈱松本印刷

電話（〇八五二）五四―一二〇八